2　鳥　　類

鳥類相の概要

地球上には約11,000種の鳥類が生息していると推定されている（バードライフ･インターナショナル 2017年発表）。日本での確認種は，日本鳥学会が2012年に発行した日本鳥類目録（改訂第７版）によると，在来種81科633種と外来種43種を合わせて676種が記載されている。このうち岡山県では，岡山県野生生物目録2019において，在来種76科378種，外来種９種と籠抜７種を合わせて，394種が記載されている。

鳥類は飛行による移動能力の高さを活かして，渡りと呼ばれる生態を持っている。特定の地域に一年中留まって生活している鳥を「留鳥」と呼ぶ。一方，春には遠く東南アジアやオーストラリアなどの南方から，秋にはシベリアやカムチャッカ半島などの北方から日本に渡って来るものがいる。春に日本より南の地域から渡ってきて繁殖し，秋には南の地域に渡って冬を過ごす鳥を「夏鳥」と呼ぶ。秋に日本より北の地域から渡ってきて冬を越し，春には北の地域に戻って繁殖する鳥を「冬鳥」と呼ぶ。この他，春の北上時や秋の南下時の渡りの時期に一時的に見られる鳥を「旅鳥」と呼び，本来の生息域や渡りのコースから外れたところで見つかる鳥を「迷鳥」と呼ぶ。

岡山県は，北部に中国山地の脊梁地，中部に吉備高原台地，南部に平野を擁し，瀬戸内海へと続いている。県北部は森林に恵まれ夏鳥たちの繁殖地となっており，県中南部は積雪が少なく平地や水辺が多いことから冬鳥の越冬地となっている。しかし，県内の鳥類の多くの種では，この数十年の間に個体数の減少や分布の縮小が指摘されている。

行動能力が高く，陸海空すべての環境に生息している鳥類は，自然の豊かさや変化を示すバロメーターでもある。そのため，県内の鳥類の増減を知ることは，岡山県の自然の変化を知るうえで重要である。

選定種の状況

今回の選定種の見直しでは，前版の岡山県版レッドデータブック2009（2010年発行）に使用した観察記録以外にも，2010年以降の県内の観察記録や，最新の環境省レッドリストなどの全国的な文献資料などを用いた。岡山県野生生物目録2019に掲載されている鳥類のうち，今版では絶滅の危機にある種として27科89種を掲載した。県内では迷鳥と考えられる種を除くと，県内の在来種の科レベルで36％，種レベルで28％が絶滅の危機にあることを示している。

今回の見直しでは，絶滅危惧Ⅰ類から情報不足までを含めて，前版の県レッドデータブックから新たに17種が追加され，７種のカテゴリーが悪化した。一方で，前版から16種が除外され，２種のカテゴリーが改善した。このような見直しの主な理由は以下のとおりである。

（１）湿地や干潟の減少による再評価

県内にあった湿地や干潟の多くは過去の開発によって消滅しており，現状では湿地や干潟の状況が改善する見込みもない。定量的なデータは無いが，河口部の干潟を中心にシギ・チドリ類が激減していることは明らかであることから，2010年以降に環境省レッドリストに追加されたシギ・チドリ類に加えて，県内で激減しているシギ・チドリ類を新たに追加した。（例：トウネン，ハマシギなど）

なお，今版から追加された17種のうち10種をシギ・チドリ類が占めていることからも，県内の湿地・干潟環境が危機的な状態になりつつあることは警戒すべき点である。

（２）調査の進展による再評価

県内や国内での調査の進展に伴い，絶滅のリスクを評価できるようになった種について，今版から新たに掲載したり，カテゴリーを修正した。（例：オオセッカ，ヒシクイなど）

（３）減少予測の再評価

前版の評価時に予想されていたほどの環境破壊や個体数の減少が観察されていない種や，最近の資料から個体数増加や分布拡大が推測される種について，カテゴリーを修正した。（例：オオヨシキリ，キビタキなど）

（４）迷鳥を評価対象から除外

環境省のレッドリストでは，日本で迷鳥とされている種が評価対象から除外されている。これに倣って，岡山県で迷鳥と考えられる種を評価対象から除外した。（例：タンチョウ，オオワシなど）

なお，今版のレッドデータブックへの掲載種に限らず，岡山県内の野鳥を取り巻く状況は悪化しつつある。ヨシ原等の湿地環境の減少，牧草地などの背丈の低い草地の減少，里山の荒廃，宅地化等による水田や農地の減少，干潟の生物の減少，ネオニコチノイド等による昆虫の減少，マイクロプラスチックによる生態系への影響，シカやイノシシの増加による地上営巣種への影響，地球温暖化による影響など，今後も様々な影響が考えられる。これらの中には長期的な影響に注意が必要な要因も多いため，引き続き鳥類の増減に注目していく必要がある。

（丸山健司・多田英行）

ウズラ

Coturnix japonica Temminck & Schlegel, 1849

キジ目　キジ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：島本　明

選定理由

かつては県内に局所的に生息していたが，近年は観察例が激減している。全国的にも個体数が減少しており，今後，県内では絶滅状態になる可能性が高い。草地開発，農耕地の荒廃，植生遷移によって生息に適した草地環境が減少している。

形態

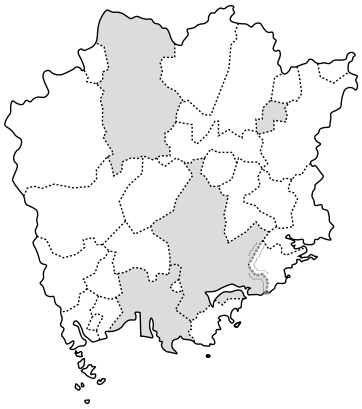
全長20cm，丸い体つきで尾は短い。体の上面は褐色で黒と淡黄色の横斑と縦斑がある。眉斑は黄白色。雄夏羽の喉は赤茶色。雌と雄冬羽は淡黄褐色である。イネ科の種子や昆虫・クモなどを食べる。

分布

繁殖地は中国北部，モンゴル，サハリン，日本では北海道や中部地方以北の本州である。冬は主に本州中部以南へ渡る。大陸のものは中国南部, 台湾, インドシナ半島などへ渡る。岡山では冬鳥である。

生息状況

冬鳥として渡来した個体は，川原や休耕地などの草地に生息し群れで生活する。近年，岡山県内での確認事例は稀となり，生息数は非常に少ない。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

環境省で絶滅危惧Ⅱ類絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定され，狩猟鳥獣の対象種に合致しなくなり，　2013年に狩猟鳥獣の指定を解除され捕獲禁止となった。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オオヒシクイ

Anser fabalis middendorffii Severtzov, 1873

カモ目　カモ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：三宅和子

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県内全域で局所的。国内に渡来する個体数は増加傾向にあるが，県内での個体数の増減は不明。池沼開発，河川整備，圃場整備などによって生息地が減少している。農業形態の変化（落穂の減少など）による餌の減少も危惧される。

形態

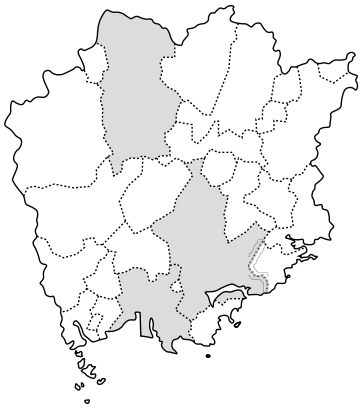
全長90 ～ 100cm，翼開長約170cm，全身が暗褐色で下面はやや淡い。体型は頸部が長く，くちばしは細長く黒く，先端が黄色。下くちばしは薄い。声は低く太い。飛翔時は上尾筒の白と尾の黒及び尾の先端の白が目立つ。

分布

夏期にシベリア東部からカムチャッカのタイガ地帯で繁殖し，冬期に中国や日本へ渡来して越冬する。日本では主に日本海側に渡来する個体が多い。新潟市の福島潟は日本で最も多くのオオヒシクイが渡来する場所として知られている。

生息状況

採食は主に水田や沼沢地ですることが多い。岡山への飛来は多くないが，近隣の渡来地は，鳥取県・島根県に多数渡来しているので岡山へ飛来する個体もある。



関係法令の指定状況

文化財保護法：天然記念物

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

近年，小型発信器を装着して渡りのルート解明が進んでいる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

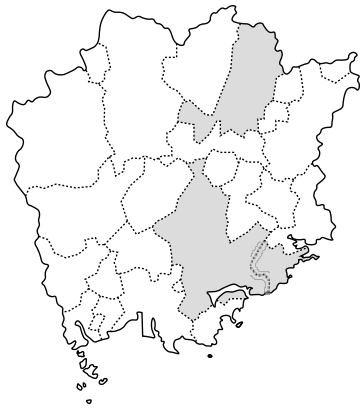
（丸山健司・多田英行）

ヒシクイ

Anser fabalis serrirostris Swinhoe, 1871

カモ目　カモ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：小林健三



選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県内全域で局所的。国内に渡来する個体数は増加傾向にあるが，県内での個体数の増減は不明。池沼開発，河川整備，圃場整備などによって生息地が減少している。農業形態の変化（落穂の減少など）による餌の減少も危惧される。

形態

全長78 ～ 89cm，翼開長約145cm，体は黒褐色で淡色の羽縁がある。上・下の尾筒は白く，尾羽は灰黒色で先端は白い。体型は太短く，頸部も短い。くちばしは太く短く，下くちばしは厚い。声は高く金属音的である。

分布

夏期にカムチャッカ半島で繁殖し，冬期に中国や日本へ渡来して越冬する。日本では主に太平洋側に渡来する個体が多く，宮城県の伊豆沼等はヒシクイが多く渡来する地として知られている。集団越冬地の南限は琵琶湖とされている。岡山への飛来は稀である。

生息状況

採食は主に水田や畑・牧草地ですることが多い。オオヒシクイとヒシクイの割合は７：３くらいと言われ，ヒシクイの生息数が少ない。

関係法令の指定状況

文化財保護法：天然記念物，鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

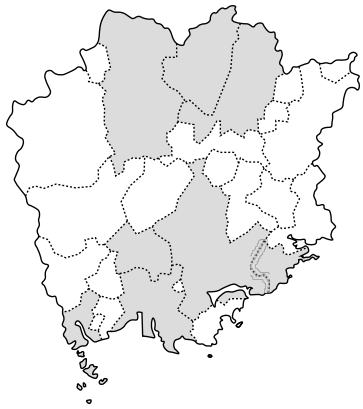
（丸山健司・多田英行）

マガン

Anser albifrons albifrons（Scopoli, 1769）

カモ目　カモ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：小林健三



選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県内全域で局所的。国内に渡来する個体数は増加傾向にあるが，県内での個体数の増減は不明。池沼開発，河川整備，圃場整備などによって生息地が減少している。農業形態の変化（落穂の減少など）による餌の減少も危惧される。

形態

全長72cm，翼開長150cm。体は灰褐色で，背には淡色の横斑があり，腹には不規則な黒色の横縞がある。上・下尾筒は白く，尾羽は黒褐色で先が白い。くちばしは桃橙色で先端は白く，くちばしの付け根は白い。足は橙色。

分布

シベリア極北部で繁殖して，中国・朝鮮半島・日本に渡来して越冬する。日本での渡来地は局地的で，宮城県伊豆沼や石川県片野鴨池が有名であるが，他にも山陰地方でよく見られる。岡山では数少ない。

生息状況

冬鳥として湖沼・水田・内湾・河川などに渡来する。岡山へ渡来する個体は，単独個体か２～３羽の家族個体で飛来することが多く，大きな群れで来た記録はない。

関係法令の指定状況

文化財保護法：天然記念物

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

カリガネやオオヒシクイ，ヒシクイなどとの識別は難しい。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ツクシガモ

Tadorna tadorna（Linnaeus, 1758）

カモ目　カモ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：國方春行

選定理由

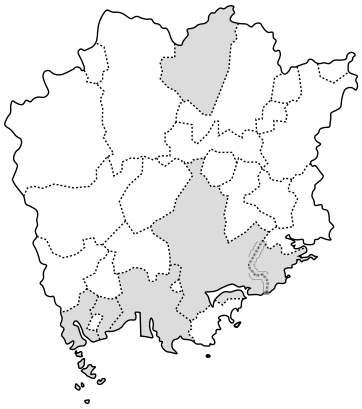
1981年に県内で初記録され，現在は100羽程度が越冬している。生息地は県南部を中心に局所的。県内の個体数は増加傾向にあるが，渡来地の開発が進んでいるため，個体数の増減に注意が必要。池沼開発，湿地開発，海岸開発（干拓や埋立による干潟減少）によって生息地が減少している。

形態

全長61 ～ 63cm，雄の頭部は緑色光沢のある黒で体は白い。肩羽と胸から腹を通る縦の線は黒く，胸側から背にまわる線は茶色。くちばしは赤く，足は橙赤色。雌は全体に色が鈍く，くちばしの付け根に白い線がある。

分布

ユーラシアの温帯部に広く分布している。冬には南アジアに渡る。日本には冬鳥として，主に九州の有明海に渡来していたが，近年その分布が広がり多数が瀬戸内海沿岸でも見られるようになった。



生息状況

西日本地域の河口の汽水域や干潟などに渡来して，貝や水生昆虫を食べる。岡山県では，瀬戸内海の干潟が出る笠岡湾干拓地，倉敷市玉島地区，瀬戸内市錦海塩田跡地，岡山市の阿部池，児島湖等で見られる。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日中渡り鳥等保護協定，日ロ渡り鳥等保護条約

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アカツクシガモ

Tadorna ferruginea（Pallas, 1764）

カモ目　カモ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：情報不足（DD）

撮影：香西宏明

選定理由

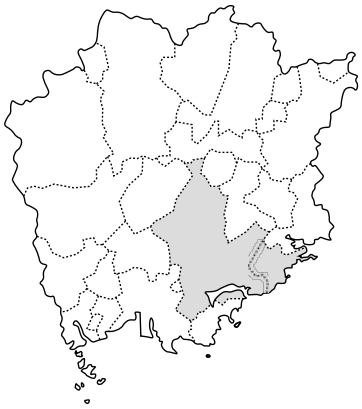
個体数はかなり少なく，渡来地は県南部に局所的。県内への渡来は稀であり，個体数の増減は不明。池沼開発，河川整備，海岸開発（干潟減少），圃場整備，田畑の荒廃などによって生息地が減少している。

形態

全長63.5cm，翼開長約130cm。体は橙赤褐色で，頭部は色が淡く，雌では特に白っぽい。尾は黒い。くちばしと足は黒い。繁殖期の雄には黒い首輪がでる。風切羽は黒くて緑色光沢があり，雨覆は白く飛ぶとそのコントラストが目立つ。

分布

ユーラシア大陸中部で広く分布して繁殖している。冬期にはユーラシア大陸南部から中国・朝鮮半島で越冬する。



生息状況

冬鳥として湖沼や広い河川，広い水田などに飛来する。警戒心が強い。岡山への飛来数は少なく，そのほとんどが１～２羽での確認である。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オシドリ

Aix galericulata（Linnaeus, 1758）

カモ目　カモ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：情報不足(DD)

撮影：濱伸二郎

選定理由

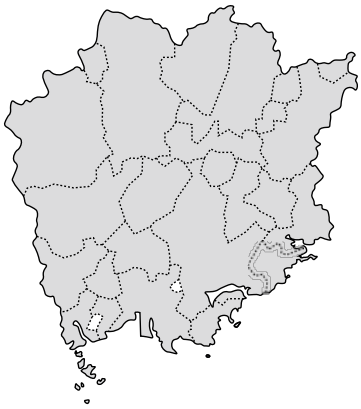
県内の越冬期の個体数は数百羽程度と推定される。生息地は県内全域に点在している。河川整備，池沼開発，森林伐採，林相変化などによって生息地が減少している。越冬期の生息地として河畔林など樹木を伴った水辺を好むため，水辺環境一帯の保全を考える必要がある。

形態

全長45cm，雄の冬羽がきれいで古くから親しまれている。橙色の銀杏羽が特徴。後頭にのびる長い冠羽も特徴。くちばしは紅色で先端は白く，足は橙色。雌は背が灰褐色，胸と脇は灰褐色で黒い斑紋がある。腹は白く，眼の周囲が白い。非繁殖期の雄は銀杏羽を欠き，雌に似た姿になる。

分布

アムール川流域から朝鮮半島・中国北部・サハリン・日本で繁殖する。冬期は日本から中国南部・台湾で越冬する。



生息状況

日本では，北海道から本州で繁殖している。九州でも繁殖の記録がある。岡山では主に冬期に観察される。鳥取県では多数が繁殖していて，その影響を受けて，岡山でも繁殖期の観察例があるが営巣は確認されていない。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約

特記事項

ドングリを主食として，木の上によく止まり，営巣場所は樹洞を利用する。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

トモエガモ

Anas Formosa Georgi, 1775

カモ目　カモ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：栗岡武史

選定理由

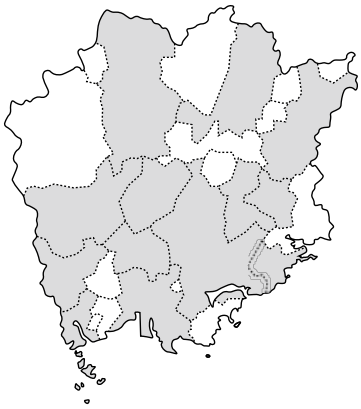
県内の個体数には年変動があるものの，数十～数百羽程度が越冬しに来ていると推測される。生息地は県内全域に点在している。河川整備，池沼開発，圃場整備によって生息地が減少している。農業形態の変化（落穂の減少）による餌の減少も危惧される。

形態

全長40cm，マガモよりやや小さい中型のカモ。雄の顔には黄白色に緑黒色の巴形に似た斑紋があるのでこの名前がある。伸びた肩羽は黒くて栗色と白の羽縁がある。雌は他の小型カモと比べると赤褐色味がある。

分布

東シベリア地域で繁殖し，冬に朝鮮半島・日本・中国に渡る。日本においては，本州中部以南の日本海側に多く，石川県や新潟県などで大群が見られている。



生息状況

淡水湖性が強く，多くは湖沼か流れのゆるやかな河川で見られる。児島湖で400羽を超す大群が渡来してきたことがあるが，瀬戸内海側ではその多くは，少数の渡来が多い。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，日ロ渡り鳥等保護条約

ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アカハジロ

Aythya baeri（Radde, 1863）

カモ目　カモ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：情報不足(DD)

撮影：香西宏明

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南部を中心に局所的。県内への渡来は不定期で個体数が少ないため個体数の増減は不明。河川整備，池沼開発（ため池の荒廃）などによって生息地が減少している。

形態

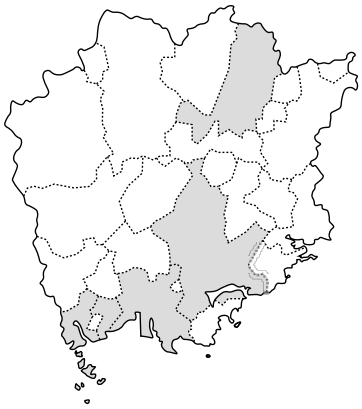
全長45cm，雄の頭部は緑色光沢のある黒色。胸は赤褐色で脇の褐色に続く。下腹も褐色であるが腹中央と下尾筒は白い。背は褐色。雌は頭・胸・上面が黒褐色で，くちばしの付け根に淡褐色の円形斑がある。雄の非繁殖羽は雌に似るが，虹彩は白色。雌の虹彩は褐色。

分布

中国東北部からロシア東部の一部で繁殖するのみ。冬期は中国南部から東南アジアへ渡って越冬する。日本への渡来は稀である。

生息状況

日本への渡来は稀であり，岡山への渡来もきわめて少ない希少種である。単独で湖沼・溜池に飛来する。キンクロハジロやホシハジロの群れの中にいることもある。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

世界の総個体数はわずか250 ～ 1000羽と推定されている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コウノトリ

Ciconia boyciana Swinhoe, 1873

コウノトリ目　コウノトリ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

撮影：國方春行

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南を中心に局所的。増殖事業によって国内の個体数は増加しており，それに伴い観察例も増えつつある。圃場整備（水田や水路の乾燥化），湿地開発，河川整備，里地の荒廃によって生息地が減少している。水田の餌生物の減少も危惧される。

形態

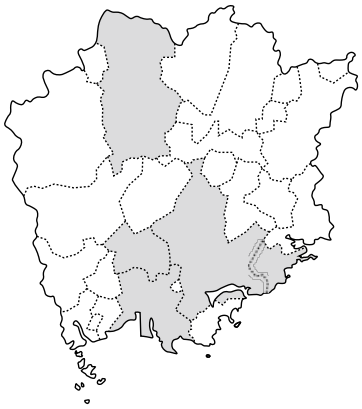
全長112cm，翼開長200cm。太くて長いクチバシを持った大きな鳥である。雌雄同色，全身白色，風切羽が黒い。眼の周囲は赤く，クチバシは黒い。水田，湖沼，河川などで魚類，両生類，爬虫類などを捕食する。

分布

中国東北地区，朝鮮半島，日本に分布するが，日本の種は1971年野生絶滅した。その後，人工飼育に成功して個体数を増やし，野外繁殖もするようになり，その数を増やし岡山県へも多く飛来するようになっている。

生息状況

稀に中国大陸からの渡来個体が見られるが，多くは兵庫県豊岡市を始めとする国内で保護の元で繁殖した個体が増えている。



関係法令の指定状況

文化財保護法：特別天然記念物
種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
ワシントン条約　附属書Ⅰ，日ロ渡り鳥等保護条約

特記事項

国内繁殖個体群・野生絶滅（1971年）

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

サンカノゴイ

Botaurus stellaris stellaris（Linnaeus, 1758）

ペリカン目　サギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：濱　孝志

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県南部に点在している。生息に適した連続性のある広いヨシ原が少なく，開発の危機に曝されている。池沼開発，河川整備，湿地開発，土地造成によって水辺に隣接した湛水ヨシ原が減少している。餌となる水生生物の減少も危惧される。

形態

全長70cm, 大きなサギで体はずんぐりしていて首も短く見えるが，伸ばすと長い。頭頂は黒く，体は淡黄褐色に複雑な斑紋や横斑がある。虹彩は黄色または白黄色。足は淡黄緑色。水辺で魚類･両生類･爬虫類・昆虫類などを捕食する。

分布

ユーラシア大陸中部に分布するが，日本では北海道と本州で少数が繁殖するが，岡山も含めて多くの地域では数の少ない冬鳥である。

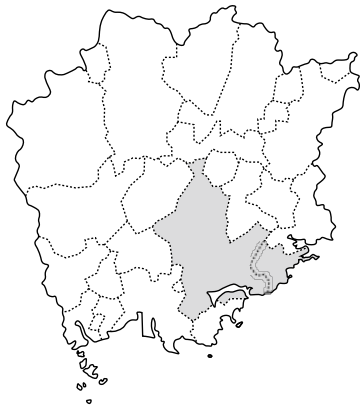
生息状況

広いヨシ原に棲み，主に夜間行動するので姿は見にくい。敵や人が近づくと直立したり地上に伏せたりして背後のヨシに擬態する形を取って危険を避けている。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ヨシゴイ

Ixobrychus sinensis sinensis（Gmelin, 1789）

ペリカン目　サギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：小林健三

選定理由

個体数は少なく，生息地は全県にかけて点在している。抽水植物（ヨシ，ハス）群落に生息・営巣するが，池沼開発，河川整備，湿地開発，圃場整備（ため池環境の変化やハス田の減少），宅地開発によって生息地が減少している。餌となる水生生物の減少も危惧される。

形態

全長36.5cm，日本のサギの中では最も小さい。雄は頭頂が黒く，体は黄褐色。飛ぶと風切が黒く，雨覆は黄褐色。雌は上面が淡赤褐色で胸以下に淡赤褐色の縦斑紋がある。

分布

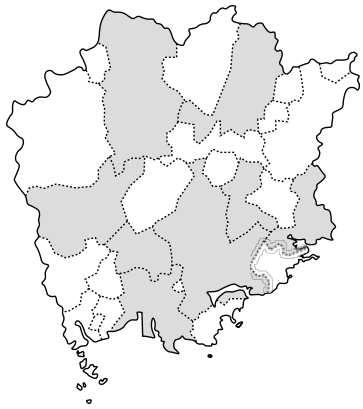
冬に東南アジアで越冬したものが，夏鳥として日本に渡来する。日本では，九州以北，四国・本州・北海道のヨシ原やハス田で繁殖する。岡山では，広いヨシ原がある河川，湖沼，ハス田のある南部から中部にかけて分布するが，生息数は少ない。

生息状況

広いヨシ原がある河川や湖沼・湿地が減少し，さらにハス田では防鳥ネット等が張られたりして，生息環境が非常に少なくなり，姿を見る機会が少なくなっている。

関係法令の指定状況

日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ミゾゴイ

Gorsachius goisagi（Temminck, 1836）

ペリカン目　サギ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：三好　薫

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県内全域に点在している。湿潤な森林の減少などにより，特に里地で個体数が減少している。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），里山の荒廃，宅地開発によって生息地や営巣適地が減少している。

形態

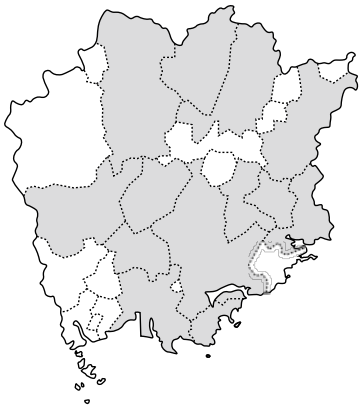
全長49cm，顔は赤栗色，くちばしは短い。体の上面は濃い栗褐色で黒色を帯びる細かな虫食斑がある。下面は淡く，脇に黒と白の粗い斑紋がある。沢沿いで小魚やサワガニなどの甲殻類を捕食する。

分布

日本には夏鳥として本州から九州に渡来し，丘陵や低山のよく茂った暗い林を好む。繁殖地は西日本が多い。冬は台湾・フィリピン・中国南部へ渡る。

生息状況

渓流や沢沿いの地上5 ～ 15m の高さの木に枯れ枝を組んだ皿型の巣を造る。日中に採食して夜間に鳴くが，姿を見るのは困難である。岡山では，南部での確認は少なく，中部から北部の山間部に見られる。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

日本だけが繁殖地となっている。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ササゴイ

Butorides striata amurensis（Schrenck, 1860）

ペリカン目　サギ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：渋鍬　啓

選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。近年個体数が急激に減少している。河川整備，湖沼開発，圃場整備などによって生息地が減少している。森林伐採や里山の荒廃による営巣地の減少，採食に適した浅瀬などの河川敷環境の減少，魚類などの餌生物の減少が危惧される。

形態

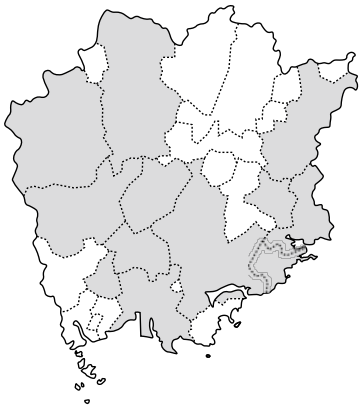
全長52cm，成鳥は頭が黒く，後頭の羽毛は長く伸びて冠羽状。背と雨覆は青緑色の光沢ある黒褐色，風切は黒褐色。下面は淡い紫灰色，足と眼は黄色。幼鳥は黒褐色で翼には灰白色の斑点があり，喉の白い線が目立つ。

分布

北はアムール川流域から中国・朝鮮半島・日本，南はオーストラリア北部，西はインドまでのアジアとオセアニアの温帯・熱帯地方に広く分布している。

生息状況

日本には夏鳥として北海道南部から本州・四国・九州に渡来して繁殖する。単独または小集団で高い木の上に皿形の巣を造る。川や水田などで魚を捕る。岡山県内では，営巣場所がカラスなどに襲われ生息場所が少なくなり，姿が少なくなっている。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

パンくずや葉などを自ら浮かべて疑似餌として魚をおびき寄せて捕えるという行動が各地で観察されている。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）　（丸山健司・多田英行）

チュウサギ

Egretta intermedia intermedia（Wagler, 1829）

ペリカン目　サギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：渋鍬　啓

選定理由

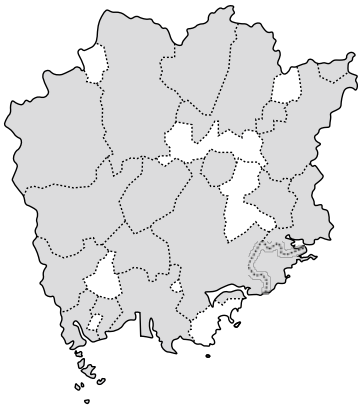
かつては夏鳥として県内全域で普通に観察されていたが，近年は個体数が極端に減少している。圃場整備（水田や水路の乾燥化），宅地開発によって生息地が減少している。また，森林伐採（里地開発，騒音糞害対策）によって繁殖地が激減している。水田の餌生物の減少も危惧される。

形態

全長68.5cm，翼開長105 ～ 115cm，雌雄同色。全身が白色。夏羽では背からみの状の飾り羽がでる。くちばしは黒く，眼先は黄色。くちばしは短い。冬羽は飾り羽がなくなり，くちばしは黄色で先端が黒い。

分布

冬は東南アジアで過ごし，夏鳥として日本に渡来する。本州・四国・九州で繁殖する。本州中部以南で越冬する個体も稀にいる。南西諸島では冬鳥である。



生息状況稀

水田や湿地・草地でゆっくりした動作で獲物にしのび寄り，カエル・バッタ・水生昆虫・ザリガニなどを捕食する。くちばしが短いため，魚よりも昆虫を捕まえるのを得意としている。湿地や草地の減少に伴って餌生物が減少しており，個体数が減少している。

関係法令の指定状況

日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

クロサギ

Egretta sacra sacra（Gmelin, 1789）

ペリカン目　サギ科　●岡山県：情報不足　●環境省：該当なし

撮影：三村啓子

選定理由

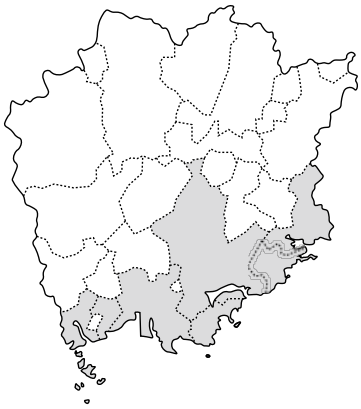
個体数はかなり少なく，生息地は県南部に点在する。県内での観察例は稀であり，近年の増減は不明。主な生息地は自然海岸に限定されるため，海岸開発（干潟減少，岩場や磯の減少）などによる生息地の減少や，餌生物の減少が危惧される。

形態

全長62.5cm。くちばしは太く長く，足は比較的短い中型のサギ。黒色型と白色型がある。黒色型は灰黒色で後頭に短い冠羽がある。眼先の裸出部も灰黒色。足は黄緑色。白色型は全身白色，くちばしは黄色。

分布

日本から中国･東南アジアの沿岸部。オーストラリア･ニュージーランドに分布する。日本では主に本州中部以南の海岸に留鳥として生息する。



生息状況

ふつう単独で行動し，岩場の多い海岸で魚や甲殻類を捕食する。干潟・砂浜・海に近い水田にいることもある。岡山では個体数が少ない。

関係法令の指定状況

日米渡り鳥等保護条約

特記事項

九州以北は黒色型が多く，奄美大島以南では白色型と黒色型とがいる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

カラシラサギ

Egretta eulophotes（Swinhoe, 1860）

ペリカン目　サギ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：準絶滅危惧（NT）

撮影：濱伸二郎

選定理由

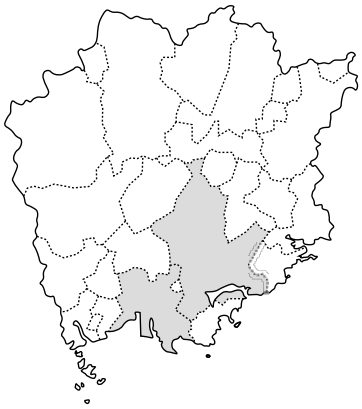
県内に渡来する個体数や既知の生息地はかなり少なく，世界的にも個体数が少ない。県内への渡来は稀で，迷鳥の可能性もあるため個体数の増減は不明。池沼開発，河川整備，湿地開発，海岸開発などによる湿地や干潟の減少が危惧される。餌生物の減少も危惧される。

形態

全長65cm，コサギ大の白いサギ。夏羽では後頭から細い冠羽がでる。くちばしは橙黄色で，足は黒くて足指が黄色。婚姻色では眼先が青くなる。冬羽では冠羽は短く，くちばしは黒味を帯び，眼先は黄緑色となる。

分布

朝鮮半島北部から中国南東部にかけて局地的にしか繁殖地がない。冬期に台湾や東南アジアに南下して越冬する。日本には越冬のため南西諸島から九州・西日本に飛来する。



生息状況

岡山・西日本では，旅鳥または冬鳥として湖沼や水田・川・湿地などに渡来している。そのため長期に滞在することは稀であり，渡来数も数少ない。

特記事項

世界的に数の少ないサギで，個体数は2600 ～ 3400羽と推定されている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ヘラサギ

Platalea leucorodia leucorodia Linnaeus, 1758

ペリカン目　トキ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：情報不足（DD）

撮影：秋山　登

選定理由

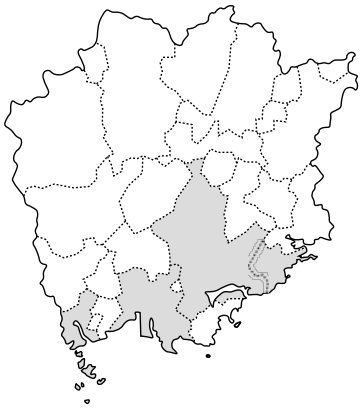
個体数はかなり少なく，渡来地は県南部で局所的。湿地開発，海岸開発，湖沼開発，河川整備等によって生息地の湿地や干潟が減少している。泥地や干潟の餌生物の減少も危惧される。

形態

全長86cm，翼開長115 ～ 130cm，雌雄同色。全身が白色で，夏羽は後頭に橙黄色の冠羽がある。首には橙黄色の帯がでる。くちばしは黒く平たいしゃもじ状，先端は黄色。首も足も長い。冬羽では冠羽が短くなり，首の橙黄色も消える。幼鳥は翼の先が黒く，くちばしはピンク色味を帯びる。

分布

アムール川流域からモンゴル地域で繁殖して，冬鳥として日本に渡来する。その数は少ない。



生息状況

冬鳥または旅鳥として岡山に渡来する。南部の湖沼・干潟・河口などで，半開きにした平たいくちばしを水中で左右に振りながら餌を探し，魚類やエビ・カニなどを捕食する。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

クロツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel, 1849

ペリカン目　トキ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：香西宏明

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南部で局地的。湿地開発，海岸開発，湖沼開発，河川整備によって生息地の湿地や干潟が減少している。沼地や干潟の餌生物の減少も危惧される。

形態

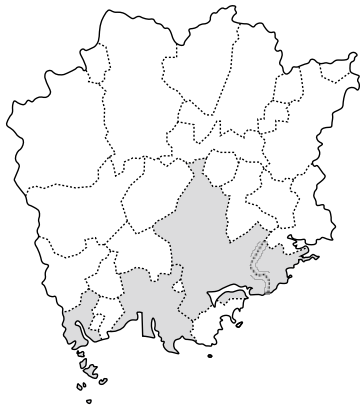
全長73.5cm。ヘラサギに形や大きさはよく似ているが，やや小さい。くちばしは長く黒いへら状である。眼先は幅広く黒い皮膚が露出していて，くちばしと眼がつながっているように見える。体は白色。

分布

中国東北部の一部と朝鮮半島南西部の島で繁殖し，冬期に南に移動する。日本には稀な冬鳥として少数が渡来する。その多くは西日本に集中している。岡山県では南部の河口および湖沼で確認されている。

生息状況

数少ない冬鳥で，水田・湿地・浅い水溜りなどで小魚やエビなどをくちばしを半開きにして水中に入れ，左右に振りながら捕食している。全世界の個体数は約3200羽と言われている。



関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣　日中渡り鳥等保護協定

特記事項

主な越冬地は台湾，香港，ベトナム，中国南部，日本などで，日本では主に九州以南で越冬する個体が多い。近年は約300羽が日本で越冬している。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

マナヅル

Grus vipio Pallad, 1811

ツル目　ツル科　●岡山県：情報不足　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：西村由紀子

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県内全域で局所的。県内における個体数の増減は不明であり，県内への渡来は稀な種であることから，迷鳥の可能性もある。圃場整備，湿地開発，池沼開発，河川整備，土地造成などによって生息地が減少している。また，農業形態の変化（落穂の減少など）による餌の減少も危惧される。

形態

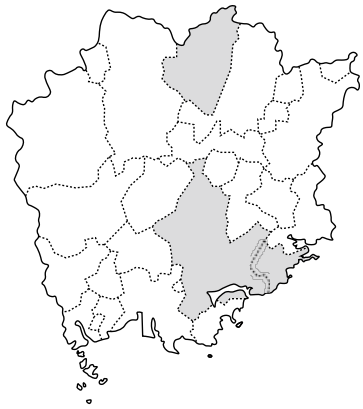
全長127cm，雌雄同色。額から眼の周囲は赤く，頭部・喉・首の上部は白い。首の下部前側から胸・腹・背は灰黒色。雨覆は青灰色で，風切に近い部分ほど白っぽくなる。ただし，個体によっては相当黒く見える。

分布

モンゴル北東部から中国東北部のアムール川上中流域で繁殖し，冬期に中国の長江下流域や朝鮮半島そして鹿児島県出水市周辺で越冬する。近年は，出水市への集中を避けるため各地への分散運動も進められている。

生息状況

出水市には2500 ～ 3000羽が越冬している。それとは別のルートで渡来してきたり，分散した個体が，岡山に飛来して冬を過ごしている。長期滞在と一過性がいる。



関係法令の指定状況

種の保存法：国際希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅰ

特記事項

世界の生息数5000 ～ 6000羽程度，5割前後が日本で越冬している。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988），叶内拓哉ほか 著（2013）

（丸山健司・多田英行）

ナベヅル

Grus monacha Temminck, 1835

ツル目　ツル科　　●岡山県：情報不足　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：西村由紀子

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県内全域で局所的。県内における個体数の増減は不明であり，県内への渡来は稀な種であることから，迷鳥の可能性もある。圃場整備，湿地開発，池沼開発，河川整備，土地造成などによって生息地が減少している。また，農業形態の変化（落穂の減少など）による餌の減少も危惧される。

形態

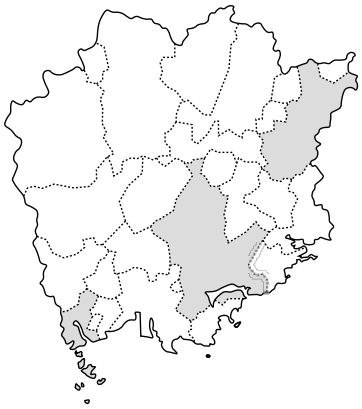
全長96.5cm，雌雄同色。体は灰黒色，頭部と首は白く，眼先や額は黒く，前頭は裸出して赤い。雨覆は灰黒色で風切は少し黒味が強い。くちばしは黄褐色で，足は黒い。

分布

シベリア南東部のレナ川上流域・アムール川下流域・ウスリー川流域が繁殖地として知られている。冬期の越冬地は主に日本であるが，中国の長江下流域や朝鮮半島などでも越冬している。

生息状況

日本の出水市には，8000羽以上が渡来して越冬している。近年は，出水市への集中を避けるため各地への分散運動も進められている。岡山への飛来は数少ないが，多くは２～３羽の家族と思われる群れである。



関係法令の指定状況

種の保存法：国際希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅰ

特記事項

世界の生息数は１万羽程度と推定，その８～９割の8000羽が日本で越冬。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988），叶内拓哉ほか 著（2013）

（丸山健司・多田英行）

クイナ

Rallus aquaticus indicus Blyth, 1849

ツル目　クイナ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：渋鍬　啓

選定理由

個体数は少なく，生息地は県南部を中心に点在している。湿地開発，池沼開発，河川整備，植生遷移，圃場整備（水田や水路の乾燥化）等によって，生息地となるスゲなどの下層植生の生えるヨシ・ガマ環境が減少している。

形態

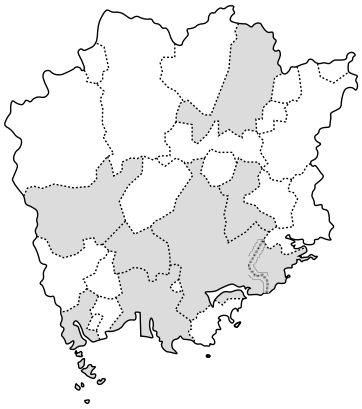
全長29cm，雌雄同色。頭から首・胸側は青灰色，腹と脇には白と黒の横斑がある。くちばしは比較的長くて，繁殖期にはほとんど赤く，秋冬には黒褐色で下くちばしの基部だけ赤い。足は黄褐色。

分布

サハリン・アムール川流域・中国東北部から北海道・本州東北地方の一部で繁殖する。全国に分布するが，本州中部以南では冬鳥である。

生息状況

湖沼や河川の水辺，ハス田・水田・湿地などに生息する。多くは単独で短い尾を動かしながら歩き，昆虫・貝・甲殻類や種子などを食べる。警戒心が強く，姿を見るのは困難。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

「クイナの戸をたたく音」とは，本種ではなくヒクイナである。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ヒクイナ

Porzana fusca erythrothorax（Temminck & Schlegel, 1849）

ツル目　クイナ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：香西宏明

選定理由

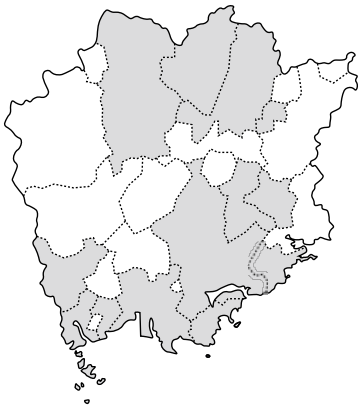
個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。越冬期の生息数が増加している可能性がある一方で，繁殖期の個体数は減少している可能性がある。湿地開発，池沼開発，河川整備，植生遷移，圃場整備（水田や水路の乾燥化），宅地造成（休耕田の開発）等によって，生息地となる下層植生の生えたヨシ・ガマ環境が減少している。

形態

全長22.5cm，雌雄同色。頭から前頸と上腹は赤茶色で，後頸･背･翼は暗緑褐色。脇・下腹・下尾筒は白と黒の横斑。くちばしは青黒色。足は赤。繁殖期にはキョッ，キョッ，キョッキョッキョッと鳴く。

分布

中国南東部から朝鮮半島・日本で繁殖して，冬には東南アジアへ渡る。日本では北海道から沖縄まで全国で繁殖している。岡山県では，平地から山間部の湖沼・河川の水辺や水田・湿地で繁殖。



生息状況

水辺の地上または浅瀬の草の茂った中やイネ株の間に巣作りをする。餌は昆虫・貝・甲殻類・小魚や植物の種子などであるが，河川等の整備が進み営巣できる場所が減少し，その数を減らしている。近年，冬期にも岡山で過ごす個体も現れ，通年で観察されるようになっている。

関係法令の指定状況

日中渡り鳥等保護協定

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ジュウイチ

Hierococcyx hyperythrus（Gould, 1856）

カッコウ目　カッコウ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：濱伸二郎

選定理由

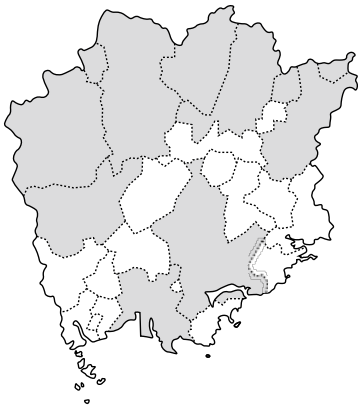
個体数は少なく，生息地は県北部を中心に点在している。生息状況に大きな変化はないが，托卵先の野鳥の減少による繁殖率の低下が危惧される。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などにより生息地が減少している。

形態

全長32cm，カッコウよりひとまわり小さい。頭や上面は光沢ある黒で，尾羽は灰褐色と黒の横斑。下面は橙黄色で喉や下腹は淡い。ルリビタキやオオルリ・コルリなどに托卵する。

分布

ロシア東部から朝鮮半島・中国そして東南アジアに広く分布している。夏期は日本を含むユーラシア大陸東部で繁殖して，冬期は東南アジアで越冬する。日本では夏鳥として渡来し，北海道から本州･四国・九州で繁殖する。



生息状況

夏鳥として渡来して山地の森林や雑木林で毛虫や果実をよく食べる。岡山では北部の森林地帯で生息するが，個体数は多くない。ジュウイチー・ジュウイチーと鳴きながら飛び回る。夜もよく鳴く。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

ジュウイチーと鳴く事から名前がついた。また慈悲心鳥とも言われる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

セグロカッコウ

Cuculus micropterus Gould, 1838

カッコウ目　カッコウ科　●岡山県：情報不足　●環境省：該当なし

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県北部で局所的。国内ではこれまで迷鳥とされていたが，近年は県内でも毎年観察されていることから，今後の動向が注目される。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。

形態

全長32.5cm。カッコウに似ているが，背は褐色味が強く，尾は灰褐色で先に黒帯があり，下面白く横斑は太くて粗い。顔から胸は灰色。眼は暗褐色。

分布

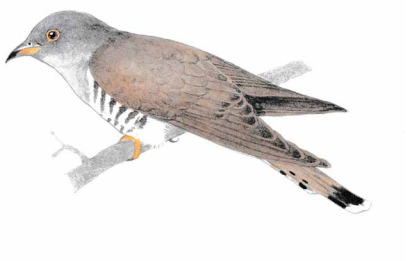
インドから東南アジアでは留鳥として，中国・朝鮮半島・ロシア東部では夏鳥として渡来する。日本でも近年夏鳥として渡来確認が増加している。

生息状況

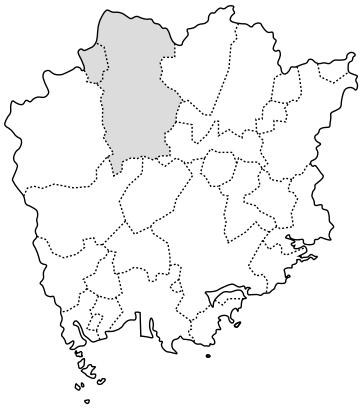
従来は，日本海側の島嶼部での記録が主であったが，近年国内の各所で繁殖の可能性がありそうなデータが出てきている。岡山県もその一つで，県内二か所で繁殖期に声（さえずり）が確認されている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）



イラスト：三木國弘



カッコウ

Cuculus canorus telephonus Heine, 1863

カッコウ目　カッコウ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

選定理由

個体数は少なく，生息地は県北部を中心に点在する。近年，県北部での繁殖個体数が減少しており，托卵先の野鳥の減少による繁殖率の低下が危惧される。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成，河川整備（河川敷の開発）などによって生息地が減少している。

形態

全長35cm，尾は長めでくさび形。翼の先は尖る。頭・胸と体の上面は青灰色，尾羽は灰黒色で白点がある。腹は白く，細い黒色横斑が帯状に並ぶ。雄はカッコウと繰り返し鳴く。オオヨシキリやホオジロ・モズ・アオジなど20種以上の小鳥に托卵することが知られている。

分布

ユーラシア大陸からアフリカにかけて広く分布する。日本やヨーロッパなどの温帯では，夏鳥として渡来し，春・夏の到来を告げる鳥，農作業の目安を知らせる鳥として耕作人には親しまれている。

生息状況

日本全国で生息し，岡山でもかつては県内全域でよくその声を聞く事が出来たが，近年は北部の一部で生息が確認できる状況である。南部で声を聞くのは渡りの時期に少数である。

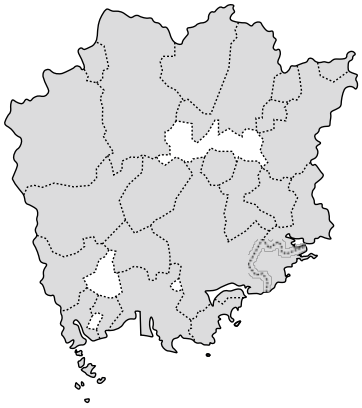
関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

撮影：村上義徳



ヨタカ

Caprimulgus indicus jotaka Temminck & Schlegel, 1844

ヨタカ目　ヨタカ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：香西宏明

選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在する。近年，里山の荒廃に伴って人里近くでの観察例が減少している。森林伐採，林相変化（植林地の荒廃），里山の荒廃によって生息地が減少している。昆虫などの餌生物の減少やイノシシの増加による営巣妨害が危惧される。

形態

全長29cm，体は灰白色・褐色・黒・白の複雑な枯れ葉模様で保護色となる。雄は眼の下・喉・翼の先に白斑がある。雌は翼や喉の白斑は不鮮明である。夜行性で夜間に飛び回り大きな口で昆虫を捕食する。

分布

東アジア・東南アジア・インドなどに分布する。日本を含む東アジアのものは冬期に東南アジアで越冬する。夏鳥として渡来して，九州以北の低山から山地の草原・明るい林・林縁などに生息する。

生息状況

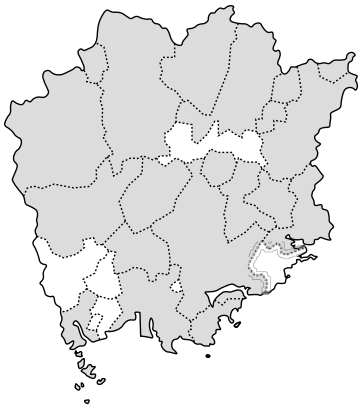
林の中やその周辺の地面に直接卵を生んでヒナを育てる。そのため近年増えたイノシシに卵を食べられることが多くなり数を減らしていると言われている。

関係法令の指定状況

日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

宮沢賢治の「よだかの星」はたくさんの野鳥が登場するファンタジー。



文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

イカルチドリ

Charadrius placidus Gray & Gray, 1863

チドリ目　チドリ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：延江勝彦

選定理由

生息地は県内全域に点在している。近年は生息地となる河川の砂礫環境の減少によって，生息地が減少している。河川の変化（砂礫地の減少，河川内での樹木の繁茂），ダム建設などによる氾濫の減少によって生息地が減少している。河川敷・砂礫地のレジャー利用などによる繁殖妨害が危惧される。

形態

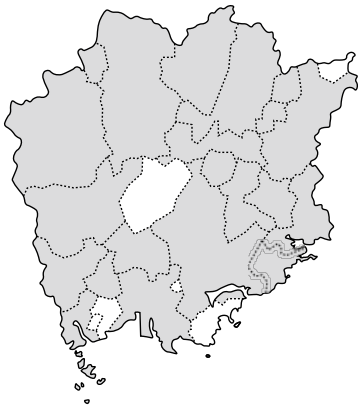
全長20.5cm，コチドリに似ているがやや大きくて，くちばしは黒く長め，上面は褐色で，前頭と眼の前後や胸の黒褐色帯がある。下面は白色。足は淡黄色。繁殖期はピッピッピッと鳴きながら飛廻る。

分布

ロシア東部から中国北部そして日本に生息する。冬期には中国南部から東南アジアで越冬する個体もある。日本では，北海道では夏鳥であるが，本州・四国・九州では通年見られる留鳥である。

生息状況

本州以南では留鳥として生息し，繁殖は主に河川の中流域から下流域の中洲や川原で行う。その川原での砂礫地が減少して繁殖できる場所が減少して，その生息数を減らしている。



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

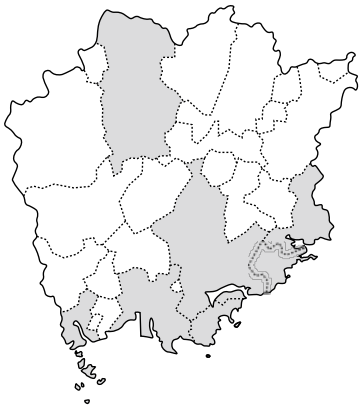
（丸山健司・多田英行）

シロチドリ

Charadrius alexandrinus dealbatus（Swinhoe, 1870）

チドリ目　チドリ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：濱　孝志



選定理由

個体数は少なく，生息地は県南部で局所的。近年，個体数や繁殖地が減少している。海岸開発，湿地開発，埋立地や干拓地の裸地の減少によって，生息地や営巣地となる砂礫地が減少している。砂礫地のレジャー利用などによる営巣妨害も危惧される。

形態

全長17.5cm，雄の夏羽は額から眉斑は白く，前頭と過眼線は黒く，頭頂は橙褐色，胸帯は黒く中央でとぎれている。くちばしと足は黒灰色。飛翔時には白い翼帯がでる。雌は灰褐色，過眼線と胸側は褐色。餌は小さなカニやゴカイなど海生小動物が主である。

分布

日本・朝鮮半島・中国東岸・台湾に繁殖分布する。日本では北海道・本州・四国・九州そして沖縄の沿岸部で繁殖する。北海道を除く地域では留鳥として留まっている。

生息状況

海岸の干潟・砂浜・埋立地や河川の下流域から中流域にかけて生息する。昔は，数十羽～数百羽の群れを見ることができたが，そのような光景を近年見る事ができなくなっている。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約

特記事項

立ち止まって餌を見つけ素早く駆け寄る動作を「チドリ足」と言われる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

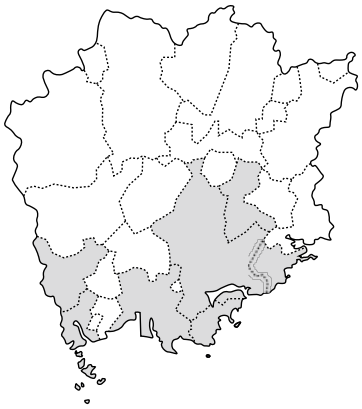
（丸山健司・多田英行）

セイタカシギ

HImantopus himantopus himantopus（Linnaeus, 1758）

チドリ目　セイタカシギ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：濱　孝志



選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部に点在している。近年，県内でも繁殖例が数例観察されている。渡りの時期の観察例は増加傾向にある。また，越冬個体も見られる。個体数の増減は不明。湿地開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化），宅地開発による生息地の減少。また繁殖地となる砂礫地も減少。

形態

全長37cm（足を含むと約55cm）雄がやや大きい。くちばしはまっすぐで長くて細い。足は淡紅色で非常に長い。翼は黒褐色で，頭や下面は白色。雄の背中は黒色であるが，雌は褐色を帯びる。

分布

中央アジアからインド，ロシア東部にかけて分布し，冬期は東南アジアで越冬する。日本には稀に渡来する迷鳥の部類であったが，近年，日本においても繁殖の報告がされ，岡山においても繁殖確認がされている。

生息状況

日本では，従来は旅鳥として水田やハス田・入江などに渡来する姿が見られていたが，近年，岡山では通年で観察されるようになった。繁殖確認もされているが，まだ，その生息数は少ない。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ヤマシギ

Scolopax rusticola Linnaeus, 1758

チドリ目　シギ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：該当なし

撮影：濱伸二郎

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県内全域に局所的。観察が難しいこともあって生息状況や個体数の増減は不明。湿地開発，森林伐採，林相の変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），圃場整備などによって生息地が減少している。

形態

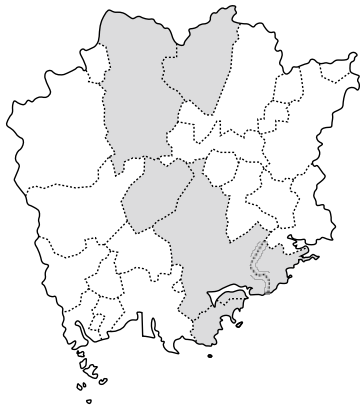
全長34cm，夏冬とも雌雄同色。大きくてよく太ったシギ。額は灰色で，頭頂に黒い横斑があり，体の上面や雨覆は赤褐色・黒・灰白色の複雑な斑紋で，背と肩羽の外側は灰白色の縦線となって見える。尾羽は黒くて先が灰色である。

分布

ユーラシア大陸中部・北部で繁殖し，中国南部から東南アジアで越冬する。日本では，北海道・本州中部以北・伊豆諸島で繁殖し，冬期に本州中部以南から沖縄まで渡って越冬する。

生息状況

本州以南では，冬期には人家の近くの公園の茂みや竹林にいることがある。他のシギと異なり，生息地は森林の中で，夜行性が強く夜間に地中のミミズなどを探して食べる。岡山でも観察例が激減している。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：狩猟鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

伝統的な狩猟鳥であるが，近年その生息数を減らしている。環境省ではその生息数を把握するためモニタリングを行い生息情報を集めている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アオシギ

Gallinago solitaria japonica（Bonaparte, 1856）

チドリ目　シギ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：該当なし

撮影：濱伸二郎

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県内全域に局所的。山林の沢沿いに生息しているため観察例が少なく，生息状況や個体数の増減は不明。森林伐採，林相の変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），山林の開発，砂防ダムの設置などによって生息地が減少している。

形態

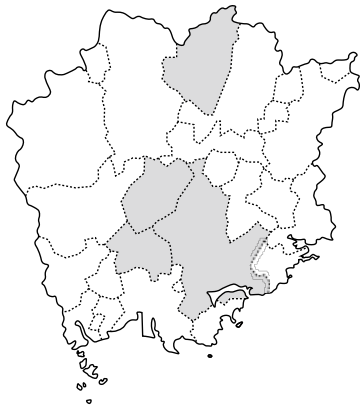
全長30cm，雌雄同色。全体の斑紋は他のタシギ類より細かく密であり，暗色にみえる。頭部や体の上面の縦斑は黄白色ではなく白い。背や翼は青灰色を帯び，下雨覆には一面に斑紋がある。胸はオリーブ褐色，腹は白い。くちばしは緑黄褐色で細長い。足は緑褐色。

分布

バイカル湖周辺やヒマラヤ北部・シベリア北東部・サハリンで繁殖し，冬期南に移動する。日本では北海道から沖縄まで冬鳥として渡来する。数は多くない。

生息状況

低地から山沿いの渓流沿いや林に囲まれた水田，山間部の湿地などに飛来して越冬する。単独でいることが多いが，ときには数羽集まることもある。本州中部以南での観察例は少なく，岡山での生息数は極めて少ない。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オオジシギ

Gallinago hardwickii（Gray, 1831）

チドリ目　シギ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：三宅和子

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南部を中心に局地的。かつては蒜山高原で繁殖をしていたが，2000年以降繁殖例が途絶えている。近年は渡りの時期に観察されるのみ。湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成によって生息地が減少している。

形態

全長30cm，雌雄同色。羽色は黄褐色と黒褐色の斑模様で，真っすぐで長いくちばしをもつ。タシギに似ているが大型で太った感じである。下雨覆には一面に黒斑がある。尾羽は14 ～ 19枚で16枚と18枚が多い。ミミズや昆虫・植物の種子などを食べる。

分布

夏鳥として主に本州中部の高原から東北以北，北海道の草原に渡来する。岡山では，真庭市蒜山地区で2000年ごろまで繁殖をしていたが，近年は繁殖期の観察例が途絶えている。

生息状況

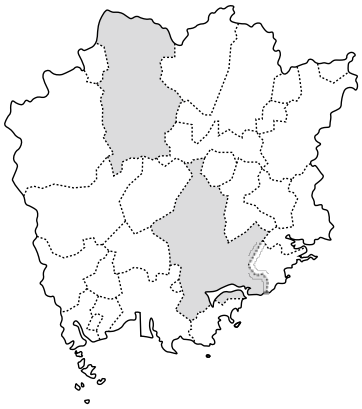
真庭市蒜山地区を含め，中国地方では近年繁殖個体が見られなくなった。渡りの時期に通過個体を見ることができる。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約
日豪渡り鳥等保護協定

特記事項

日本で繁殖して，オーストラリアで越冬する。渡りのルートは直線的で，太平洋を１万km 数日間休みなく飛び続けると言われている。



文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

シベリアオオハシシギ

Limnodromus semipalmatus（Blyth, 1848）

チドリ目　シギ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：情報不足(DD)

撮影：濱伸二郎

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南部で局所的。旅鳥として稀に渡来するが，県内では迷鳥の可能性も高く，個体数の増減は不明。池沼開発，湿地開発，海岸開発（干潟の減少）などによって生息地が減少している。湿地や干潟の餌生物の減少も危惧される。

形態

全長33cm，くちばしはまっすぐで太くて長く，足も長い。夏羽では上面が赤褐色で，頭や背に黒褐色の縦斑があり，背や翼の羽毛には白い羽縁がある。腰から尾は白地に黒褐色の横斑がある。冬羽の上面は黒褐色で羽縁は白色。

分布

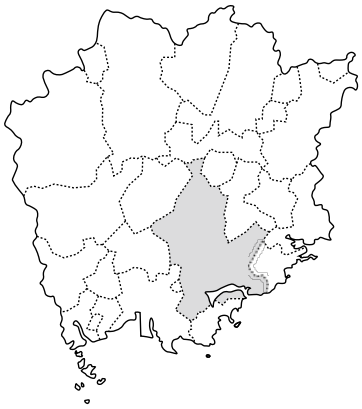
シベリアのオビ川流域と中国東北部の局地的に繁殖地が知られているのみである。冬期はインドシナ半島からオーストラリア北部で越冬している。日本へは旅鳥として渡来する。

生息状況

旅鳥として，干潟や河口，湿地，水田，ハス田など泥質地を好んで渡来する。その数は極めて少なく，その多くは１羽で移動している。

関係法令の指定状況

日豪渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オオソリハシシギ

Limosa lapponica baueri Naumann, 1836

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：栗岡武史

選定理由

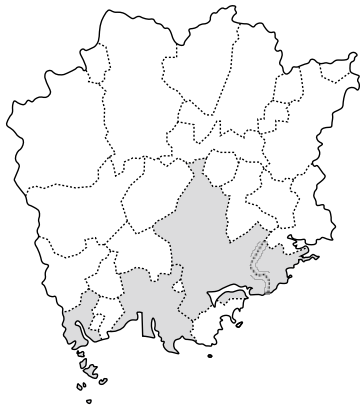
個体数は少なく，渡来地は県南部で局所的。海岸開発（干潟の減少），湿地開発によって生息地の干潟や湿地が減少している。また，干潟の餌生物の減少が危惧される。

形態

全長41cm，長いくちばしが少し上に反り，足は比較的短めの大形のシギ。冬羽の上面は灰褐色に黒褐色の軸斑があり，下面は淡褐色。夏羽の雄は頭は赤褐色で黒い軸斑がある。雌は雄より大きく，くちばしは長く，体の赤褐色は淡い。

分布

ユーラシア大陸の北端やアラスカで繁殖し，秋冬に東南アジアからオーストラリアに渡って越冬する。渡りの春・秋に旅鳥として日本を通過する。その数は春の方が多い。秋は日本を通らない大陸コースを取っている。



生息状況

旅鳥として春に日本を通過して行くが，通過途中に干潟や海岸近くの湿地・水田などで休息しながらカニやゴカイ・貝などを捕食している。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約

日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コシャクシギ

Numenius minutus Gould, 1841

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：小林健三

選定理由

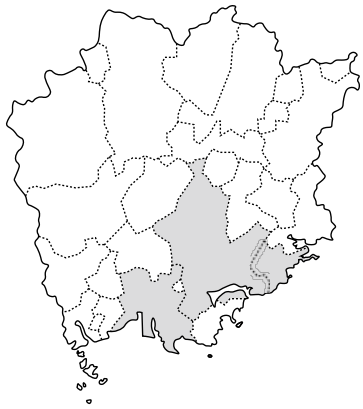
個体数はかなり少なく，生息地は県南部に局所的。草地開発，圃場開発，土地造成（干拓・埋立地の開発），植生遷移によって，生息地となる背丈の低い草地が減少している。

形態

全長31cm，下に曲がったくちばしを持つのが特徴。頭央線は淡褐色で，その両側の頭側線は暗褐色。体の上面は黄褐色で黒い軸斑があり，下面は淡褐色で黒褐色の縦斑がある。

分布

シベリア北部に繁殖地が数か所知られているのみで，冬はインドシナ半島からオーストラリア・ニューギニアへ渡る。渡る途中に日本を通過して行く，かなり稀な旅鳥である。



生息状況

渡りのコースは，日本より西の大陸沿いとみられ，本州・九州より対馬等での観察例が多い。岡山でも春・秋の渡りの季節に稀に確認されている。

関係法令の指定状況

種の保存法：国際希少野生動植物種

鳥獣保護法：希少鳥獣

日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約，日豪渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

チュウシャクシギ

Numenius phaeopus variegatus（Scopoli, 1786）

チドリ目　シギ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：該当なし

撮影：渋鍬　啓

選定理由

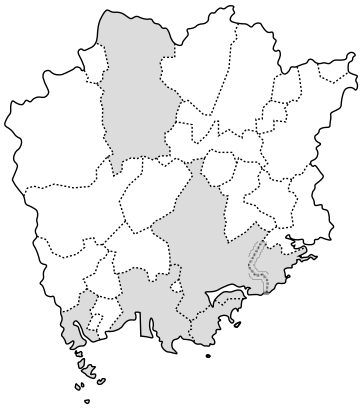
個体数は少なく，渡来地は県南部を中心に局所的。生息する干潟が減少しており，個体数も減少している。今後の情報収集が必要。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，圃場整備などによって生息地が減少している。干潟の餌生物の減少が危惧される。

形態

全長42cm，下に曲がったくちばしを持つ大形のシギであるが，ダイシャクシギより小さくくちばしも短い。頭は淡褐色，側頭線と過眼線は黒褐色。体の上面は黒褐色と淡褐色の細い羽縁と斑点がある。腰と上尾筒は白くて淡褐色の横斑がある。足は青灰色。

分布

シベリア北東部からアラスカ北部・ハドソン湾岸で繁殖している。冬期に中国東部からオーストラリア・ニュージーランドに渡って越冬する。日本に旅鳥として渡来するのはシベリア北東部で繁殖するグループである。



生息状況

旅鳥として干潟・河口・水田・ハス田・川岸などでカニなどの甲殻類を好んで捕食する。春の渡りの時期は渡来数も多いが，秋の時期は少ない。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ダイシャクシギ

Numenius arquata orientalis Brehm, 1831

チドリ目　シギ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：栗岡武史

選定理由

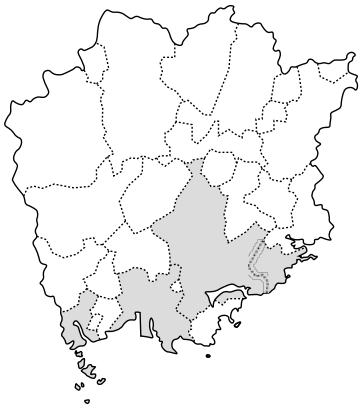
個体数は少なく，渡来地は県南部に局所的。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，池沼開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化）によって生息地が減少している。干潟や湿地での餌生物の減少が危惧される。

形態

全長60cm，長くて下に曲がったくちばしを持つ大形のシギ。頭から背は淡褐色で黒い軸斑がある。下面・腰・上尾筒は白く，尾羽は白地に黒い横斑がある。眉斑は白く，顔から首と胸は淡褐色の地に黒い縦斑がある。足は青灰色で長い。

分布

中国東北部からシベリアにかけて繁殖している。冬期は中国南部から東南アジア・オーストラリアで越冬する。日本には，旅鳥として春・秋に渡来する。



生息状況

日本には，春・秋に旅鳥として干潟がある海岸域に渡来する。満潮時で干潟が無い時は，海岸近くの水田やハス田に入って休むことがある。個体数は年々少なくなってきており，大きな群れを見ることが無くなった。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ホウロクシギ

Numenius madagascariensis（Linnaeus, 1766）

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：濱伸二郎

選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部に局所的。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，池沼開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化）によって生息地が減少している。また，干潟や湿地での餌生物の減少が危惧される。

形態

全長61cm，上・下面は淡褐色に黒褐色の縦斑がある。ダイシャクシギによく似ているが，全体に褐色みが強く，腰と翼下面に白色部がない。くちばしは長く下に湾曲し，黒色で基部は桃色。足は青灰色。

分布

中国東北部からシベリア北東部・カムチャッカ半島の一部で繁殖していると言われている。冬は台湾・フィリピン・オーストラリアに渡る。日本では春秋の渡りの途中に旅鳥として干潟や海岸近くの水田などに立ち寄る姿を見ることができる。

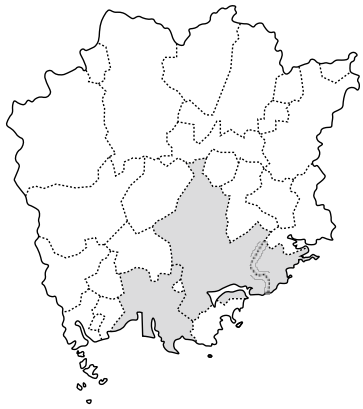
生息状況

春秋に旅鳥として，広い干潟や海岸近くの水田・ハス田などでカニ・カエル・昆虫などを捕食するが，立ち寄る広い干潟が少なく県内で観察できる場所は限られている。

関係法令の指定状況

種の保存法：国際希少野生動植物種，鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日豪渡り鳥等保護協定，日中渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ツルシギ

Tringa erythropus（Pallas, 1764）

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：香西宏明

選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部に局所的。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化），宅地開発によって生息地が減少している。干潟や湿地での餌生物の減少が危惧される。

形態

全長32.5cm，夏羽は全身が黒っぽく，背に白斑がある。冬羽は上面が灰褐色で，下面は白色。くちばしは真っすぐで細長く黒色で，下くちばし基部は赤い。足は長く夏羽では鮮やかな赤色，冬羽では橙色になる。

分布

ユーラシア大陸の高緯度地方で繁殖し，冬は北部・中部アフリカやインド・東南アジアへ渡る。

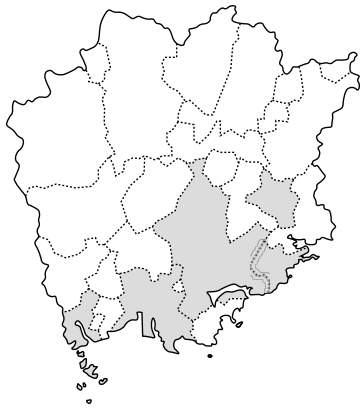
生息状況

日本には春秋に通過する旅鳥であるが，春に比べて秋は数が少ない。干潟や海岸域または内陸部の水田・ハス田・湖沼畔などで長い足を使って深い水たまりでも採餌する。餌は水生昆虫・カニ・小魚など。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アカアシシギ

Tringa totanus ussuriensis Buturlin, 1934

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：香西宏明

選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部に局所的。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，池沼開発によって，生息地の干潟や湿地が減少している。干潟の餌生物の減少も危惧される。

形態

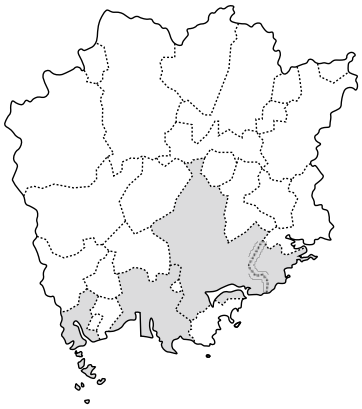
全長27cm，夏羽では頭は灰褐色で黒い縦斑があり，上面は灰褐色で黒い軸斑と横斑，黄白色の羽縁がある。顔・首・胸は白地の黒の縦斑が密にある。くちばしは先が黒く基部が赤い，足は赤い。冬羽は頭から体の上面は灰褐色で不明瞭な軸斑があり下面の縦斑は少なくなる。足は橙赤色。

分布

中国東北部からユーラシア大陸に広く分布して繁殖する。北海道東部の湿地でも繁殖している。冬はアフリカ・インド・東南アジアへ渡る。

生息状況

ヒヨドリほどの大きさで，本州から沖縄では主に旅鳥として春秋に渡ってくるがその数は少ない。干潟や海岸近くの水田・ハス田・湖沼畔などで水生昆虫・ゴカイ・カニ・小魚などを捕食する。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

カラフトアオアシシギ

Tringa erythropus（Pallas, 1764）

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

撮影：小林健三

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南部に局所的。世界的に個体数は少なく，県内には旅鳥としてごく稀に渡来する。湿地開発，海岸開発（干潟の減少），池沼開発によって生息地が減少している。餌生物の減少も危惧される。

形態

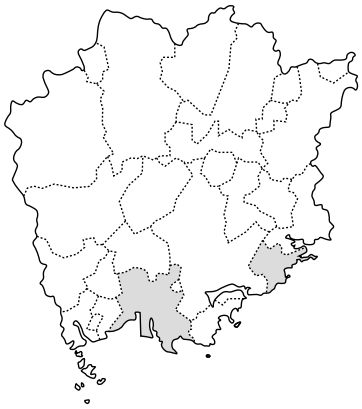
全長31cm，くちばしは真っすぐで基部が太く先端は黒く基部は桃色。足は黄褐色であまり長くない。夏羽は上面が灰黒色で白斑があり羽縁は灰色。冬羽は上面が灰色で羽縁は白っぽい。下面は白色。

分布

繁殖地はサハリン（樺太）南部が知られているのみで，マレー半島で越冬している。

生息状況

日本では春・秋の渡りの季節に旅鳥として数少ないが観察されている。世界的にも分布が限られている種である。



関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅰ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

タカブシギ

Tringa glareola Linnaeus, 1758

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：栗岡武史

選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部に局所的。湿地開発，湖沼開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化），河川整備，宅地開発によって生息地が減少している。水田の餌生物の減少も危惧される。

形態

全長21cm，夏羽では頭は灰褐色で黒い縦斑があり，体の上面は灰黒褐色で淡灰色や白色の横斑や斑点があり，雨覆には白い羽縁がある。腹は白い。冬羽では全体に少し褐色を帯びてコントラストが弱くなり不鮮明になる。くちばしは黒色で真っすぐ。足は黄緑色。

分布

ユーラシア大陸北部の広い範囲で繁殖し，アフリカ・インド・東南アジア・オーストラリアなどに渡って越冬する。

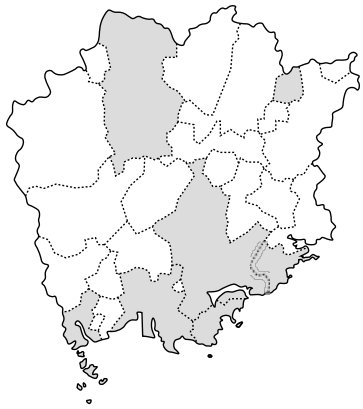
生息状況

日本には春秋に旅鳥として通過する。小さな群れを作って渡って行く。干潟などでは無く，どちらかと言うと内陸部の水田・ハス田や川岸などの泥質地を好み，水生昆虫などを捕食する。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ソリハシシギ

Xenus cinereus（Güldenstädt, 1775）

チドリ目　シギ科　●岡山県：情報不足　●環境省：該当なし

撮影：香西宏明

選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部に局所的。生息地の干潟が減少しており個体数も減少している。今後の情報収集が必要。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，圃場整備などによって生息地の干潟や湿地が減少している。干潟や湿地の餌生物の減少が危惧される。

形態

全長23cm。くちばしはやや長めで上に反り，足は橙黄色で短い。夏羽では頭から体の上面は少し褐色味のある灰色で背や雨覆には黒い軸斑があり，肩羽の軸斑は太く連なって黒線状になる。眉斑は白くて顔から胸と腹は白く，胸に灰褐色の斑紋がある。冬羽では肩羽の黒線はない。

分布

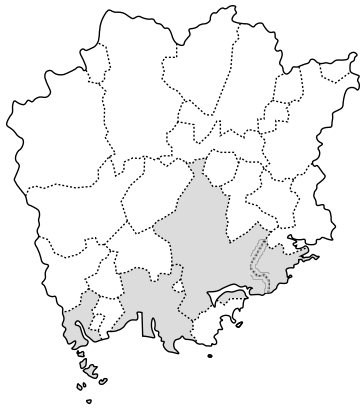
ユーラシア大陸の北部で繁殖し，冬期に東南アジアからオーストラリアの沿岸部で越冬する。日本では旅鳥として各地の沿岸部に渡来する。

生息状況

旅鳥として沿岸部の干潟や湿地・水田・ハス田などに渡来する。春の渡来と秋の渡来があるが，秋の方が個体数は多い。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

トウネン

Calidris ruficollis（Pallas, 1776）

チドリ目　シギ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：濱　孝志

選定理由

県南部に群れで渡来し，渡来地も個体数も多いシギ類であるが，近年，その個体数や生息地が激減している。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，湖沼開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化）によって生息地の減少，干潟の餌生物の減少が危惧される。

形態

全長15cm，雌雄同色。比較的くちばしが太い小形のシギ。夏羽では顔から首は赤褐色。頭から体の上面は赤褐色で黒い軸斑と白い羽縁がある。胸から腹は白い。冬羽は頭頂と上面は灰褐色で側胸には不明瞭な斑がある。足は黒色。

分布

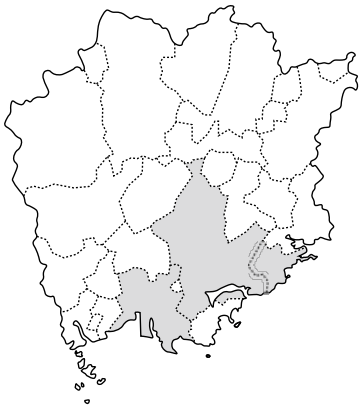
シベリア北東部とアラスカの一部で繁殖し，冬期には日本を通過して東南アジア・オーストラリアなどで越冬する。日本には春秋の渡りの時期に観察することができる。

生息状況

旅鳥として，春秋に通過する際は，海岸や干潟・水田・ハス田・埋立地などに立ち寄り，ゴカイ・カニ・昆虫やバイオフィルムなどを食べている。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ハマシギ

Calidris alpina sakhalina（Vieillot, 1816）

チドリ目　シギ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：濱　孝志

選定理由

県南部に群れで渡来し，渡来地も個体数も多いシギ類であるが，近年，個体数や生息地が激減している。渡りの時期以外にも越冬期に少数の個体が観察される。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，湖沼開発，圃場整備（水田や水路の乾燥化）によって生息地が減少している。干潟の餌生物の減少が危惧される。

形態

全長21cm，雌雄同色。くちばしは黒く比較的長くわずかに下に曲がっている。夏羽では頭から体の上面の軸斑が黒く羽縁は赤褐色。顔・首・胸は白く，細い黒色の縦斑がある。腹は白く大きな黒斑がある。足は黒い。冬羽は上面が灰色で軸斑は不明瞭になる。

分布

シベリア北部からカムチャッカ半島・北アメリカ北部で繁殖する。冬期には日本や中国南部・東南アジアへ渡って越冬する。本州南部で越冬する個体もあり，岡山でも冬期に観察することができる。

生息状況

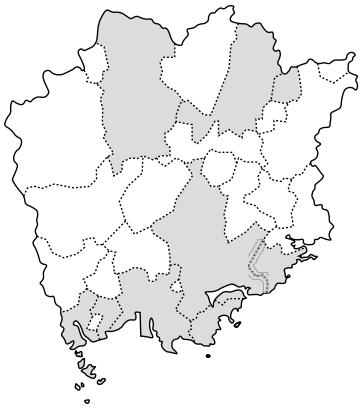
春秋の渡りの時期には，広い干潟で数十・数百の大きな群れを見ることができたが，近年はその数も激減して今では十数羽程度の群れをたまに見かけることができるほどになってしまっている。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

昔，漁師さんの話を聞くと「ハマチドリ」と呼んだのはこのハマシギの群れを見て言っていたようである。



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ヘラシギ

Eurynorhynchus pygmeus（Linnaeus, 1758）

チドリ目　シギ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠA類（CR）

撮影：香西宏明

選定理由

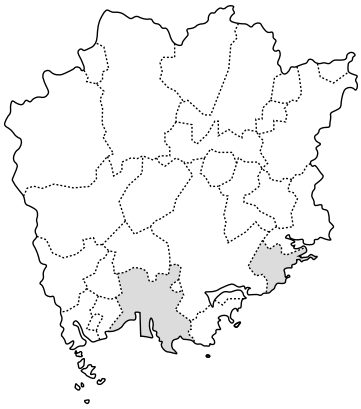
個体数はかなり少なく，渡来地は県南部に局所的。世界的に個体数は少なく県内には旅鳥としてごく稀に渡来する。海岸開発（砂浜の減少），湿地開発によって生息地が減少している。餌生物の減少や，砂浜海岸のレジャー利用による生息妨害が危惧される。

形態

全長15cm，雌雄同色，くちばしは黒色で先端がスプーン形をしている。夏羽の頭・胸は赤橙色で，上面は赤褐色に黒色軸斑がある。下面は白色。冬羽は上面が灰褐色で黒色の軸斑がある。下面は白色胸側に黒褐色の斑紋。

分布

繁殖地としてシベリア北極圏チュクチ半島付近が知られている。冬は中国南部の海岸からインド・ベンガル湾の海岸地方へ渡り越冬する。日本へはその途中に旅鳥として立ち寄る。岡山県では海岸付近で見られる。



生息状況

数少ない旅鳥として秋の渡り時期に沿岸部の干潟や入江で観察できる。トウネンなどの群れに混じって見られることもある。

関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

タマシギ

Rostratula benghalensis benghalensis（Linnaeus, 1758）

チドリ目　タマシギ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：藤井聖三

選定理由

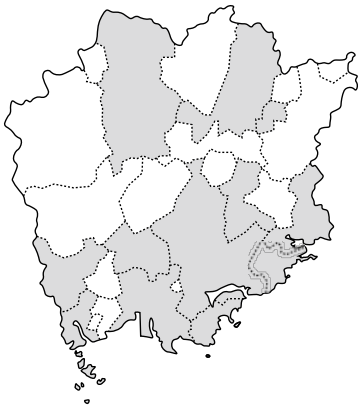
個体数は少なく，生息地は県南部～県北部にかけて点在する。圃場整備（水田や水路の乾燥化），耕作放棄地の増加，宅地開発，池沼開発によって水田周辺の生息地が減少している。水田の餌生物の減少も危惧される。

形態

全長25cm，雌は雄より大きく，羽色が鮮やかで，喉から胸の赤褐色（雄は灰褐色）が目立つ。雌雄とも眼の周囲は白。胸側の白線とそれに続く背の外側の黄色い線が目立つ。上面は茶褐色で黒と白の細かい縞模様があり草に隠れると保護色になる。一妻多夫で，抱卵・子育ては雄が１羽で行う。

分布

中国東北部から東南アジア・インドにかけて分布する。日本では，青森県から福島県にかけては，夏鳥として分布，それ以南は留鳥として周年見ることができる。



生息状況

東北南部以南の水田やハス田・湿地・休耕田などで繁殖し，子育てをする。雌は繁殖期には，夕方から夜にかけてコォーコォーコォーと鳴く。動作は不活発，一妻多夫の習性をもつ。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ツバメチドリ

Glareola maldivarum Forster, 1795

チドリ目　ツバメチドリ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：和気秀徳

選定理由

個体数はかなり少なく，渡来地は県南部を中心に局所的。圃場整備，宅地開発，耕作放棄地の増加，植生遷移によって，生息地となる疎らな草地や砂礫地が減少している。

形態

全長25cm，ツバメを大きくしたような形。夏羽では背と胸はオリーブ褐色，腹は白っぽい。喉はクリーム色で黒い縁取りがある。翼と尾は黒い。飛ぶ姿もツバメに似て，飛びながらトンボやハエなどの昆虫を捕食する。

分布

シベリア南部・モンゴル・中国・台湾などで繁殖して，東南アジアからフィリピン・ボルネオなどに渡り越冬する。日本には旅鳥として少数が渡来する。なお，宮崎県・福岡県・鳥取県・愛知県・静岡県で繁殖記録がある。

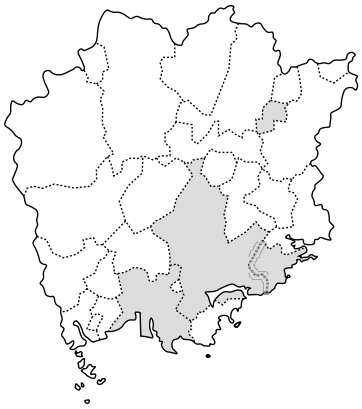
生息状況

岡山県では，旅鳥として干潟や埋立地・畑・川原・草地などに渡来する。その数は少ない。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ズグロカモメ

Larus saundersi（Swinhoe, 1871）

チドリ目　カモメ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：渋鍬　啓

選定理由

個体数は少なく，生息地は県南部を中心に局所的。海岸開発（干潟の減少），湿地開発，土地造成によって生息地となる干潟が減少している。干潟の餌生物の減少も危惧される。

形態

全長31.5cm，ユリカモメに似ているが少し小さい。夏羽では頭が黒く，背と上面は淡青灰色，首・胸・腹・尾は白色。くちばしは短く黒色。足は赤色。冬羽では頭部は白く，眼の後ろに黒斑がある。

分布

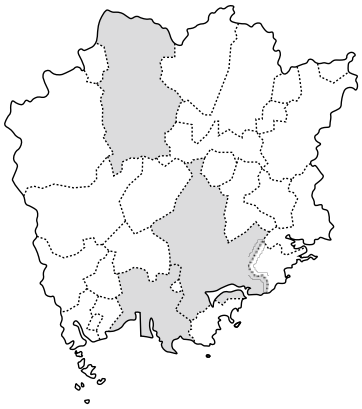
黄海や渤海沿岸で繁殖し，冬期になると朝鮮半島沿岸や中国大陸南部の沿岸部・台湾・ベトナムおよび西日本の沿岸部に渡来する。

生息状況

日本では冬期に主に九州に渡来していたが，近年瀬戸内海にも姿を見せる数が多くなってきている。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コアジサシ

Sterna albifrons sinensis Gmelin, 1789

チドリ目　カモメ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：香西宏明

選定理由

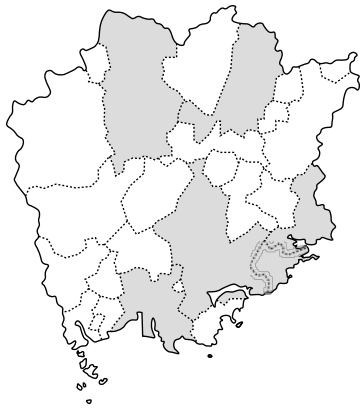
個体数は少なく，生息地は県南部を中心に局所的。かつては埋立地の砂礫地で100羽以上が繁殖していたが，砂礫地の減少に伴い近年は数つがいまでに減少した。河川整備（砂礫地の減少），海岸開発，土地造成，植生遷移によって生息地や繁殖地（コロニー）が減少している。餌となる小型魚類の減少も危惧される。

形態

全長25cm，小型のアジサシ。翼は細長く，尾は短い燕尾。夏羽は額が白く頭頂から後頭にかけて黒い。背と翼の上面は淡青灰色，くちばしは黄色で先が黒く，足は橙黄色。冬はくちばしが黒く，足は褐色になる。

分布

東南アジア・中国沿岸部・日本・オーストラリアなどで繁殖する。日本へは夏鳥として４月ごろに渡来して10月ごろまで滞在する。



生息状況

本州以南の海岸の砂浜，埋立地，川の中洲などで集団営巣（コロニー）し，近くの海面，川，湖沼などで空中にホバリングしながら小魚を探しダイビングして捕える。

関係法令の指定状況

種の保存法：国際希少野生動植物種

日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，日豪渡り鳥等保護協定

特記事項

多くの県でデコイを使った繁殖コロニーへのコアジサシ誘致が実施されている。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）　（丸山健司・多田英行）

ハチクマ

Pernis ptilorhynchus orientalis Taczanowski, 1891

タカ目　タカ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：坪井信澄

選定理由

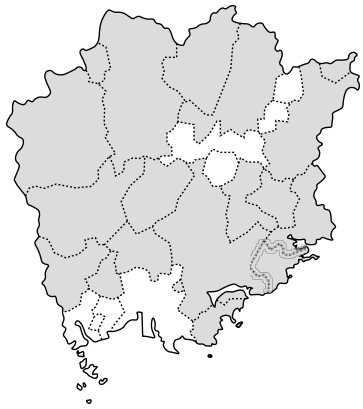
繁殖個体数は少なく，繁殖地は県内全域に点在している。林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），里山の荒廃，森林伐採によって生息地が減少している。山地でのメガソーラー建設も問題となる。また，ハチ類を主食としていることから，農薬汚染などによる餌生物の減少も危惧される。

形態

雄全長57cm，雌全長61cm，翼開長121 ～ 135cm，トビより少し小さく，尾は丸い。飛翔中に翼の前縁から出ている頭部は他のタカより長いのが特徴。雄の顔は青灰色が強い。翼には２～３本の翼帯がある。尾にも２本の黒帯。

分布

夏鳥として渡来して，九州から北海道までの丘陵地や標高1,500mくらいまでの山地の樹上に巣を造る。秋になると集団で南を目指して飛行してゆく。秋は九州五島列島から上海付近に海をわたりインドネシア付近で冬を過ごす。春は朝鮮半島を通って日本に戻ってくる。



生息状況

岡山県内の山地では南部から北部に至るまで繁殖が確認されている。特に餌となるクロスズメバチの多い地域が生息に適している。秋に群れとなって渡って行く姿は，県内のルートになっている地区で見ることができる。

関係法令の指定状況

ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

スズメバチを相手とするためハチ刺されに対して特異な体質を持っている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）　（丸山健司・多田英行）

オジロワシ

Haliaeetus albicilla albicilla（Linnaeus, 1758）

タカ目　タカ科　　●岡山県：情報不足　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：香西宏明

選定理由

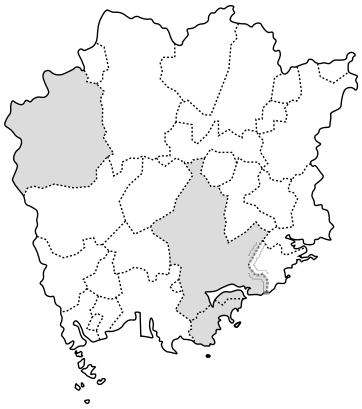
個体数はかなり少なく，渡来地面は局所的。県内への渡来は稀で，迷鳥として渡来している可能性もある。海岸開発，池沼開発などによって生息地が減少している。餌となるカモ類の減少による狩場の減少も危惧される。

形態

雄全長84cm，雌全長94cm，翼開長199 ～ 228cm，翼は幅が広くて四角い。尾は短くて少しくさび形。体全体は褐色であるが頭部は淡色の個体が多い。尾羽は白く，くちばしと足は黄色。幼鳥は全体に褐色で腹は少し淡く，尾羽は黒褐色。くちばしは先が灰黒色で次第に黄色くなる。

分布

ユーラシア大陸に広く分布している。日本では北海道北部および東部では周年生息する個体もいる（留鳥）。しかし，日本では主に冬期に渡来する冬鳥である。



生息状況

北海道の一部を除いて，冬鳥として渡来する。北海道から本州北部が主な渡来地となっているが，山陰地方や岡山・四国・九州まで渡来する個体がある。岡山への渡来個体は少ない。

関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
文化財保護法：天然記念物，鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約
ワシントン条約　附属書Ⅰ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

チュウヒ

Circus spilonotus spilonotus Kaup, 1847

タカ目　タカ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

撮影：濱　孝志

選定理由

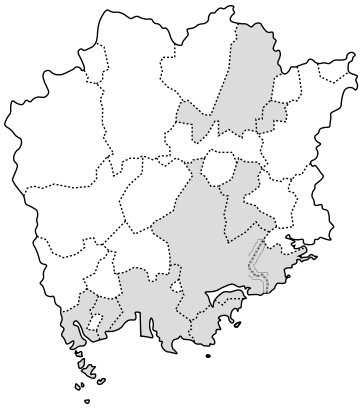
県内では越冬期に10 ～ 20個体程度が生息している。越冬地は県南部を中心に局所的。以前は１つがいほどが繁殖していたが，生息環境の悪化により近年は途絶えている。湿地開発，湖沼開発，河川整備，植生遷移，圃場整備，土地造成（太陽光発電施設の建設など）によって生息地のヨシ原が減少している。

形態

雄全長48cm，雌全長58cm，翼開長113 ～ 137cm，トビよりやや小さい中型のタカ。頭部は白いものから黒いものまで，下面も白と黒のまだら模様のものから，茶褐色，褐色，黒褐色，灰褐色と色彩には変異がある。

分布

主として日本には冬鳥として渡来するが，北海道と本州で局地的に繁殖。岡山県内では３個所で繁殖記録があり，西日本の数少ない繁殖地になっている。



生息状況

広いヨシ原や農耕地・川原などの水辺で小鳥やカモ・ネズミ・カエルなどを捕える。タカとしては珍しく，広いヨシ原の地上にヨシの茎を集めて巣を造る。日本国内で繁殖するつがい数は約90つがい，越冬期の個体数は300 ～ 450個体と推定されている。

関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ハイイロチュウヒ

Circus cyaneus cyaneus（Linnaeus, 1766）

タカ目　タカ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：栗岡武史

選定理由

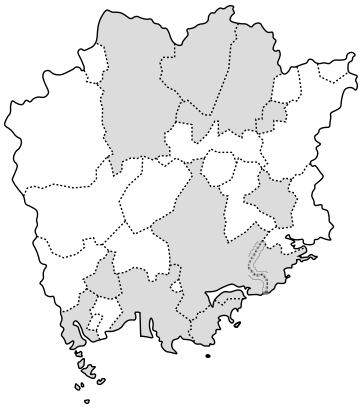
個体数はかなり少なく，生息地は全県で局所的。近年は生息環境の悪化によって複数個体の越冬が見られる良好な生息地が減少している。湿地開発，湖沼開発，河川整備，圃場整備，植生遷移によって生息地となるヨシ原や草地が減少している。

形態

雄全長45cm，雌全長51cm，翼開長99 ～ 124cm。翼と尾が長い中型で，独特の垂直飛行ができる。足も他のタカより長い。雄は頭部と体と尾羽が明るい灰色で，胸と腹は白く，上尾筒も白い。雌は頭部や体の下面は淡褐色の地に黒褐色の縦斑があり，体の上面は褐色。

分布

ヨーロッパ全域からアジア北部に分布している。アジアでは北極圏の少し南からチベットに至る間で繁殖。日本では繁殖記録が無く，冬鳥である。



生息状況

全国に冬鳥として渡来して，平地の湿原や草地，湖沼などの水辺の草原・ヨシ原上空を好んで低空で帆翔飛行して，餌動物を探す。帆翔飛行時の両翼はＶ字形となる。個体数は多くない。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ツミ

Accipiter gularis gularis（Temminck & Schlegel, 1844）

タカ目　タカ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：濱伸二郎

選定理由

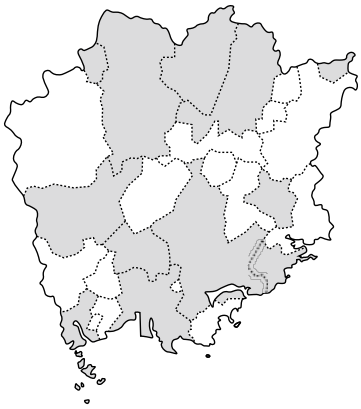
主に秋の渡りの時期に県内全域で確認される。繁殖期の観察例は少なく，繁殖個体数の増減は不明。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃）によって生息地が減少している。

形態

雄全長27cm，雌全長30cm，翼開長51 ～ 63cm。日本産タカ科の中で最小。雄の上面は暗青灰色，下面は白くて胸側から脇は赤褐色。眼は暗紅色。雌の上面は暗灰色で，下面は白またはクリーム白色で胸・腹に濃褐色の太くてやや粗い横縞がある。

分布

中国東部から朝鮮半島と日本の本州以北の林で繁殖する。冬期は中国南部や東南アジアで越冬する。西日本では留鳥として留まる個体もいる。



生息状況

岡山では，山地で繁殖する個体が少数であるが見ることができる。冬期にはその個体数も増え，越冬する個体がいる。また，秋のタカの渡りの季節には，北から南へ渡る旅鳥の個体も多数見ることができる。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定，ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

近年，公園や街路樹など比較的人の生活に近い環境で営巣する個体がいる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ハイタカ

Accipiter nisus nisosimilis（Tickell, 1833）

タカ目　タカ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧（NT）

撮影：藤井聖三

選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。観察例の多くは越冬期のもので，県内の繁殖状況は不明。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），草地開発，河川整備（河川敷の整備）によって生息地が減少している。

形態

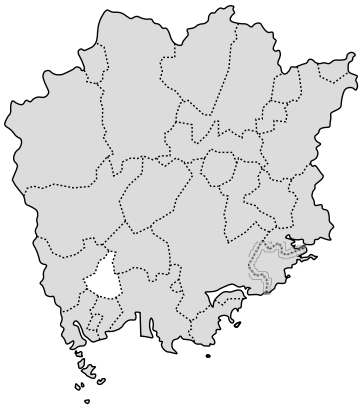
雄全長32cm，雌全長39cm，翼開長61 ～ 79cm。形態や翼下面の斑はオオタカによく似ていて雄はハト大。雄の上面は暗青灰色で，尾に黒帯がある。下面は白地に赤褐色の横斑がある。雌の上面は灰褐色で下面は白地に褐色の横斑がある。

分布

シベリアからカムチャッカ半島・ヒマラヤ・中国東部そして日本に分布する。日本では北海道から本州・四国・九州に分布しているが，ツミ，オオタカより標高が高い所に営巣している。

生息状況

岡山では，まだ，繁殖の確認がなく，そのほとんどが冬期に観察される冬鳥となっている。山間部での確認が多いが県内で広く確認されている。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オオタカ

Accipiter gentilis fujiyamae（Swann & Hartert, 1923）

タカ目　タカ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：準絶滅危惧（NT）

撮影：森本明倫

選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。国内では個体数の増加が指摘されており，県内では越冬期の観察例が増加傾向にあるが，繁殖個体数の増減は不明。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃）により生息地が減少している。河川整備（河川敷の整備）による狩場の減少も危惧。

形態

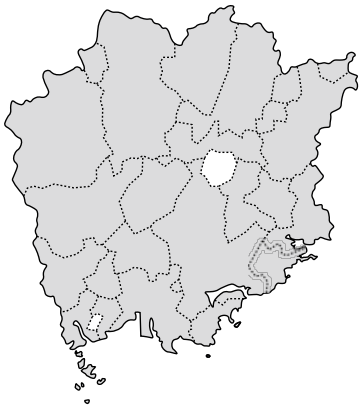
雄全長50cm，雌全長57cm，翼開長106 ～ 131cm。森林のタカで，幅が広く短い翼と長い尾をもつ。頭・背・翼の上面と尾羽は暗青灰色で尾羽には４本の黒帯がある。頬は青黒色で眉斑は明瞭，下面は白地に黒くて細かい横斑が一面にある。眼は黄色。

分布

ユーラシア大陸と北アメリカ大陸に広く分布する。日本では北海道・本州・四国・九州で繁殖している。

生息状況

平地の山林や丘陵地から高地の森林までと広く生息している。一時期には環境悪化や密猟等でその数を減らし生息が危ぶまれた時期もあったが，その後の保護策により生息数を徐々に増やしている。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約
ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

昔，鷹狩りに使用されたタカはほとんどが本種であった。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

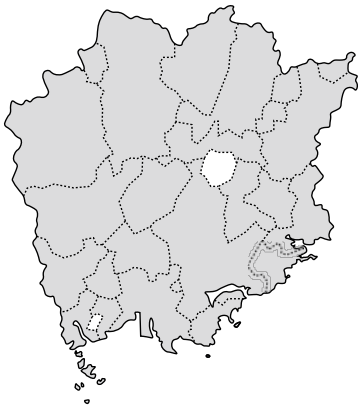
（丸山健司・多田英行）

サシバ

Butastur indicus（Gmelin, 1788）

タカ目　タカ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：小林健三



選定理由

秋の渡りの時期には多数が観察されるが，県内での繁殖個体数は少ない。生息地は県内全域に点在している。里地の荒廃，林相変化，森林伐採によって生息地が減少している。水田周辺の餌生物の減少も危惧される。里山の荒廃に伴って，今後も生息状況が悪化する可能性が非常に高い。

形態

雄全長47cm，雌全長51cm，翼開長103 ～ 115cm，およそカラス大のタカである。体の上面は褐色で白色の眉斑がある。頬は灰色，喉は白くて中央に黒い縦線がある。下面は白くて胸と腹には褐色横斑があり，尾羽は数本の黒帯がある。

分布

日本・ウスリー地方・中国東北部で繁殖している。日本では主に山形県以南の本州から四国・九州までの低山帯の森林で夏鳥として繁殖している。岡山県内においても県全域の人里に近い林で繁殖している。

生息状況

県内の水田と林などが入り混じった人里に近い所で，ヘビ・トカゲ・カエルなどを主に捕食しているが，山間部での水田放棄が進み，餌となる小動物が減少してしまい本種の生息個体数も激減している。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

秋に大群で渡りをする姿がよく見られる。本州から九州・沖縄を通過してフィリピン・インドシナ半島・ボルネオ島などに渡り冬を過ごす。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

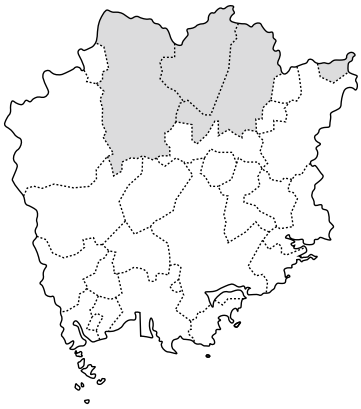
（丸山健司・多田英行）

イヌワシ

Aquila chrysaetos japonica Severtzov, 1888

タカ目　タカ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：村上義徳



選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県北部で局所的。過去に県内での営巣例があるが，近年は途絶えている。森林伐採，林相変化（植林地の荒廃），山地利用の減少（小規模伐採の減少，草地の荒廃），土地造成（風力発電施設など）によって生息地が減少している。

形態

雄全長81cm，雌全長89cm，翼開長170 ～ 213cm。日本のタカ科の中では最も黒く見える。体は黒褐色，後頭は金褐色，長くて円形の尾は少し淡く先端が黒い。くちばしは先が黒鉛色で基部は黄色。足は黄色。

分布

九州以北に留鳥として棲むが，標高700 ～ 3000m の山岳地帯に生息しており，広い縄張りを持つ。岡山県では北部で稀に飛翔を見ることができる。

生息状況

北海道南部・本州・四国・九州などで断崖の岩棚に営巣，直径２mを越える大きな巣もある。その個体数は少なく生息個体数は約500羽といわれている。

関係法令の指定状況

文化財保護法：天然記念物
種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

クマタカ

Nisaetus nipalensis orientalis（Temminck & Schlegel, 1844）

タカ目　タカ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県中部～県北部を中心に点在している。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），道路建設や土地造成によって生息地が減少している。一部の繁殖地ではカメラマンによる繁殖妨害も危惧されている。

形態

雄全長72cm，雌全長80cm，翼開長140 ～ 165cm。大型で翼は幅広く短い。翼開長はトビと同じくらい。翼の後縁の内側はふくらみがある。尾も長く幅も広い。後頭の羽毛は少し長く冠羽状である。大きな趾でノウサギ・キツネ・タヌキ・ヤマドリ・キジなどや爬虫類・両生類なども捕食する。

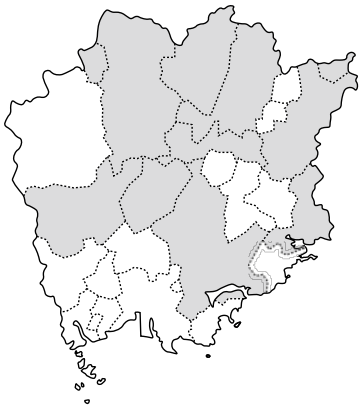
撮影：森末善昭

分布

日本では北海道・本州・四国・九州で繁殖する留鳥である。岡山県ではかなり広い範囲の山間部に生息する。

生息状況

県北から県中部の山間部の森林地帯を中心とした地域に生息している。かなり広い縄張りを持つため，その生息数は多くない。



関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オオコノハズク

Otus lempiji semitorques Temminck & Schlegel, 184

フクロウ目　フクロウ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：該当なし

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県北部を中心に局所的。近年，個体数の減少が危惧される。森林開発，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃）によって生息地が減少している。餌生物の減少が危惧される。

形態

全長23 ～ 26cm，翼開長54 ～ 60cm，雌雄同色，体には褐色・灰白色・黒色の複雑で細かい虫食い状斑がある。頭部には大きな羽角がある。小型哺乳類や小鳥・爬虫類・両生類・昆虫を捕食する。

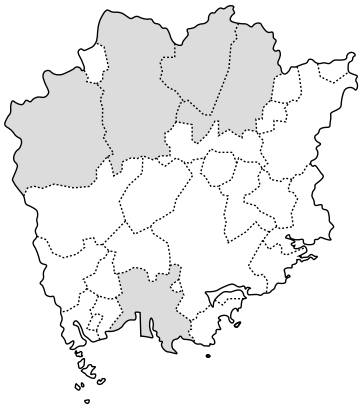
撮影：濱伸二郎

分布

日本では北海道から九州まで分布するが，北海道では夏鳥となり，本州・四国・九州では留鳥である。

生息状況

主に樹洞に巣を構えるために，その樹洞の数が少なく，また多くの樹洞はこれを利用する小型動物や鳥類との競合が起こり，利用できる樹洞がないため生息数もきわめて少ない。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コノハズク

Otus sunia japonicas Temminck & Schlegel, 1844

フクロウ目　フクロウ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：該当なし

撮影：小林健三

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県北部を中心に局所的。近年，個体数の減少が危惧される。森林開発，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃）によって生息地が減少している。昆虫類など餌生物の減少が危惧される。

形態

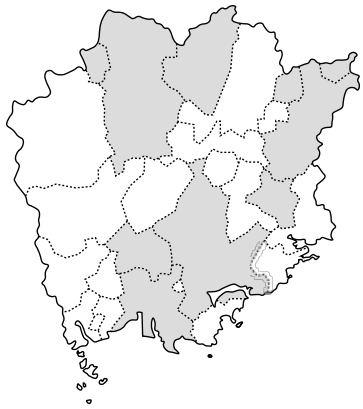
全長19 ～ 22cmの小型のフクロウで樹洞に営巣する。全身が褐色で，濃い斑が複雑に散在する。羽色から灰色型と赤色型（赤褐色）の２型がいる。羽角は小さくあまり目立たない。

分布

日本には夏鳥として東南アジアから渡来して，北海道から九州・沖縄まで分布する。ただし，沖縄・南西諸島の地方で見られるのはリュウキュウコノハズクとして区別されている。

生息状況

山地のよく茂った林の中で樹洞を利用して営巣するが，樹洞が減少すると共に，コノハズクの姿を見たり，声を聞いたりする機会は激減している。もともと，そうたくさん生息していた種ではないので厳しい状況である。



関係法令の指定状況

ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

「ブッポウソー」と鳴くのはこのコノハズクで声のブッポウソウと呼ばれる。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988），

（丸山健司・多田英行）

フクロウ

Strix uralensis Pallas, 1771

フクロウ目　フクロウ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：村上義徳

選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。森林開発，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），里山の荒廃，土地造成などによって生息地が減少している。営巣可能な大木の樹洞の減少や餌生物の減少が危惧される。

形態

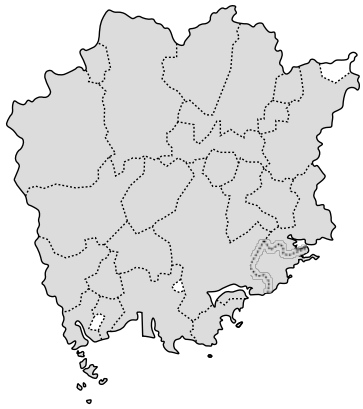
全長48 ～ 52cm，翼開長94 ～ 102cm。羽角がなく，尾は比較的長い。翼は短くて幅が広い。上面は灰白色・黒・褐色の複雑な斑紋である。顔盤は灰褐色で，眼は黒くて比較的小さい。体の下面は白地に黒い縦斑がある。ホッホ，グルスクホッホと太い声で間を置いて繰り返して鳴く。

分布

ヨーロッパ中部からアジア・日本にかけてのユーラシア大陸温帯・亜寒帯に分布する。日本には北海道から本州・四国・九州に留鳥として生息する。

生息状況

岡山県内の低地から山地にかけて全域に生息するが，大きな木の樹洞で営巣するため，その様な樹洞がある大木がすっかり少なくなり，営巣できる場所が減少し，その生息数を減らしている。



関係法令の指定状況

ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

音を立てることなく飛翔するフクロウの翼の形状を利用して新幹線のパンタグラフは風切音を小さくしている。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アオバズク

Ninox scutulata japonica（Temminck & Schlegel, 1845）

フクロウ目　フクロウ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：渋鍬　啓

選定理由

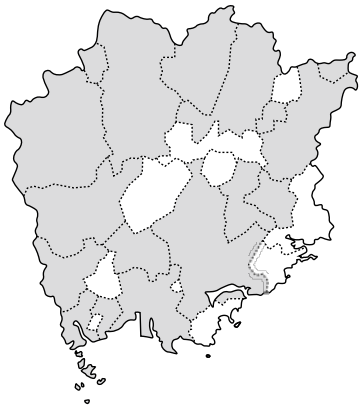
個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。かつては社叢林など人里近くに生息していたが，近年は減少している。森林開発，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），里山の荒廃，土地造成などによって生息地が減少している。昆虫類などの餌生物の減少も危惧される。

形態

全長27 ～ 30.5cm，翼開長66 ～ 70.5cm，羽角はなく尾が長い。頭部から体の上面は一様にチョコレート褐色で尾には黒帯がある。下面は白地に褐色の黒褐色の太い縦斑がある。眼は黄色である。ホッホー，ホッホーと繰り返して鳴く。

分布

日本を含む東アジアから東南アジアまで分布する。日本では北海道から本州・四国・九州で夏鳥として繁殖している。冬期は東南アジアに渡って冬を過ごす。



生息状況

平地から低山帯の森林に生息して，大きな木の樹洞を利用して営巣する。多くはフクロウと競合するが，フクロウより小さな樹洞でも利用できるので棲み分けをしている。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

トラフズク

Asio otus otus（Linnaeus, 1758）

フクロウ目　フクロウ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：森末善昭

選定理由

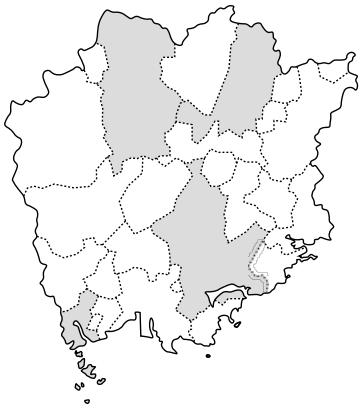
個体数はかなり少なく，生息地は県南部を中心に局所的。ただし，日中は潜行性（夜行性）が高いため，実際の生息状況は不明。河川整備，圃場整備，草地開発，土地造成によって生息地が減少している。

形態

全長35 ～ 40cm，翼開長91 ～ 102cm，中型のフクロウで羽角は黒く長い。上面は灰褐色で，黒・褐色・白色の複雑な斑紋がある。下面には黒い縦斑と交わる細かい横斑がある。趾まで羽毛におおわれている。眼は橙色。農耕地など開けたところに有る林や山地・低地の森林などで夜間に林縁や農耕地を飛び回ってネズミ類を捕食する。

分布

ユーラシア大陸の温帯域に広く分布する。日本では北海道・宮城県・山形県の極一部で繁殖の記録があるが，多くは越冬のために渡来した冬鳥である。



生息状況

岡山県では，冬期に農耕地周辺や河川敷周辺の林で昼間は休息し夜間に餌取りに出かけている。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コミミズク

Asio flammeus flammeus（Pontoppidan, 1763）

フクロウ目　フクロウ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：國方春行

選定理由

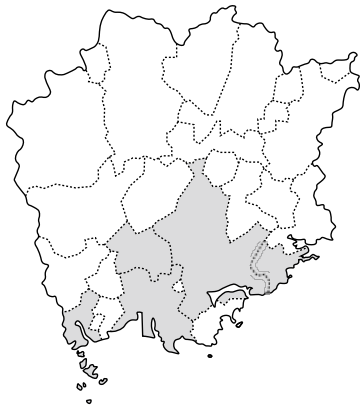
個体数は少なく，生息地は県南部に局所的。草地開発，圃場整備，池沼開発，河川整備，湿地開発，土地造成などによって生息地が減少している。殺鼠剤の散布等によるネズミなどの餌生物の減少も危惧される。

形態

全長35 ～ 41cm，翼開長94 ～ 104cm，大きさと羽色はトラフズクに似ているが，羽角は短い。顔盤は淡灰褐色で眼は黄色，眼の周囲は黒い。尾の横斑はトラフズクより太く明瞭。体の下面は縦斑だけである。

分布

北アメリカからユーラシア大陸の北緯40 ～ 70度範囲で繁殖している。北海道から本州・四国・九州で越冬する。



生息状況

冬期に日本に渡来して，海岸や水田・川岸の湿った草地に生息して，夕暮れから夜間にかけて，ネズミ類を中心に鳥類・昆虫などを捕食する。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日米渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

短い羽角がコミミズクの名前の由来となっている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アカショウビン

Halcyon coromanda major（Temminck & Schlegel, 1848）

ブッポウソウ目　カワセミ科　　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：香西宏明

選定理由

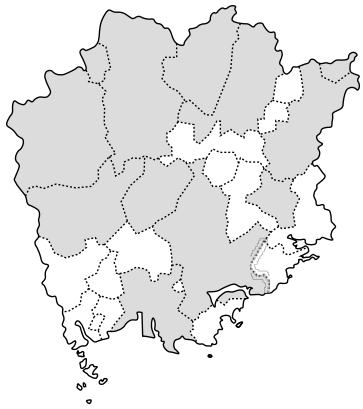
個体数は少なく，生息地は県北部を中心に局所的。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少），土地造成などによって生息地が減少している。営巣可能な大木の樹洞の減少や餌生物の減少が危惧される。

形態

全長27cm，雌雄同色。体の大部分は黄褐色を帯びた赤色で上面には紫色の光沢がある美しい鳥。腰の一部にルリ色の羽毛がある。くちばしは太くて赤く，足も赤い。キョロロロ・・・・と尻下がりに鳴く。

分布

日本・中国東部・朝鮮半島・台湾から東南アジア等に広く分布して繁殖する。日本では，北海道から本州・四国・九州・沖縄まで夏鳥として渡来する。



生息状況

夏鳥として全国に渡来して，低地から山地のよく茂った林に生息する。薄暗い林の間を巧みにぬって活発に移動する。昆虫・カニ・カエル・ムカデ・小魚などを捕食する。森林の樹洞や朽木などに穴を掘って営巣するのでその様な環境が少なく生息数は少ない。

関係法令の指定状況

日中渡り鳥等保護協定

特記事項

夜明けごろや小雨で周囲が暗いときによく鳴くのでアメフリドリとも呼ばれる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

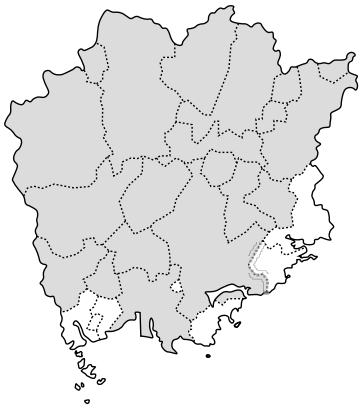
（丸山健司・多田英行）

ヤマセミ

Megaceryle lugubris lugubris（Temminch, 1834）

ブッポウソウ目　カワセミ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：香西宏明



選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に局所的。1980年代には180羽程度が確認されていたが，2017年には20羽程度までに激減している。今後も個体数が減少する可能性が高い。営巣地となる土崖の減少や採食に適した河床環境が減少している。分布が拡大しているカワウとの競合など餌生物の減少も危惧される。

形態

全長38cm，日本産のカワセミ科では最大。頭頂の羽毛は長く冠羽状となる。体の上面は白と黒のまだら模様で，下面は白い。雄は胸に黄褐色の帯と黒い斑点がある。雌は黒斑が帯状にある。下雨覆は雄は白く，雌は黄褐色。

分布

ヒマラヤから東南アジア・中国・朝鮮半島・日本に分布する。日本では北海道・本州・四国・九州の山地の川や湖沼・ダムなどに留鳥として分布する。

生息状況

山麓から山地の渓流やダム湖などで，水辺の横枝や岩場・電線などに止まって魚をねらって水中に急降下して魚を捕獲する。急勾配な土手や崖に巣穴を掘って巣作りをするが，その様な崖が少なくその生息数も近年激減した。

関係法令の指定状況

鏡野町富は「ヤマセミ生息地」として岡山県文化財保護条例の天然記念物に指定されている。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

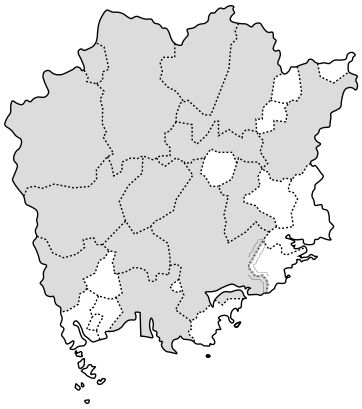
（丸山健司・多田英行）

ブッポウソウ

Eurystomus orientalis calonyx Sharpe, 1890

ブッポウソウ目　ブッポウソウ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：香西宏明



選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に局所的。巣箱設置によって個体数と分布域が増え，現在は県内で300つがいほど営巣しているが，自然樹洞での繁殖は確認されていない。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），里山の荒廃などによって生息地が減少している。

形態

全長30cm，ハトよりやや小さい。頭は大きく，翼は長く，尾も長め，くちばしはオレンジ色で頑丈で厚く幅がある。先端はカギ状である。足は合趾足で赤色。初列風切の基部に青白色の斑紋がでる。見通しのよい枝や電線に止まりフライングキャッチで昆虫を捕る。

分布

東南アジアで越冬して，夏鳥として日本に渡来する。北海道・本州・四国・九州で繁殖する。近年は樹洞が減少して巣箱による保護が行われている。

生息状況

平地から低山地の林を中心に生息する。岡山県内では多くの場所でブッポウソウ用巣箱を設置して保護活動をしている地域が多い。そのお陰で岡山県は日本有数のブッポウソウ生息地である。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

オオアカゲラ

Dendrocopos leucotos（Bechstein, 1802）

キツツキ目　キツツキ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：國方春行

選定理由

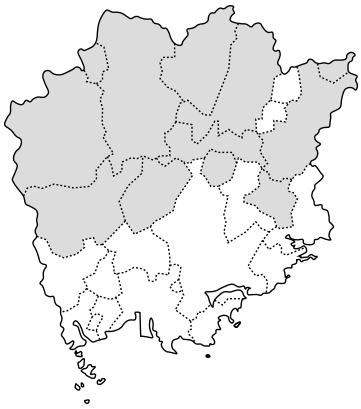
個体数は少なく，生息地は県中部～北部に点在している。森林伐採, 林相変化（落葉樹林の減少, 植林地の荒廃), 土地造成などによって生息地が減少している。営巣木の減少も危惧される。

形態

全長28cm，くちばしはまっすぐで比較的長い。雄は頭頂が赤いが，雌は黒い。背と中央尾羽は黒い。腰は白い。翼には黒い地に白色の横斑がある。体の下面は淡黄褐色で，顔から胸側にかけて黒線が走り，脇には黒い縦斑がある。下腹と下尾筒は桃紅色。

分布

シベリア南部・モンゴル・中国から朝鮮半島そして台湾・日本に分布する。日本では，北海道・本州・四国・九州から奄美大島まで分布するが，奄美大島の種は亜種オーストンオオアカゲラとされている。



生息状況

平地あるいは山地の落葉樹林・針葉樹林・混合林に単独またはつがいで生息する。昆虫を主食とするが，木の実も食べる。岡山では県北部の森林が発達した地域の比較的大きな樹木の幹に穴を開けて営巣する。数は少ない。

特記事項

くちばしで木をたたくドラミング音はかなり大きな音を立てる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

チョウゲンボウ

Falco tinnunculus interstinctus McClelland, 1840

ハヤブサ目　ハヤブサ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：香西宏明

選定理由

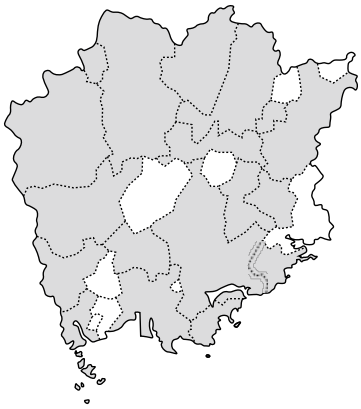
個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。過去に複数羽が観察されていた生息地の中には，個体数が減少している場所もある。圃場整備，草地開発，河川整備，宅地開発などによって開けた草地環境が減少している。

形態

雄全長33cm，雌全長39cm，翼開長69 ～ 76cm。ハヤブサ科の中ではいちばん尾が長く見える。雄は頭から顔が青灰色，背と雨覆が茶褐色で黒い斑点がある。雌は上面が褐色で黒い斑点があり，尾には数本の黒帯がある。

分布

ヨーロッパからアジアにかけて広く分布している。日本では中部地方以北青森の山地や海岸・川沿いの断崖の岩棚や壁面に穴を掘り営巣する。近年は市街地の橋梁やビルなどでも繁殖例が見られている。岡山では冬鳥。



生息状況

岡山では，冬期に草地・河川敷・農耕地などで，ひらひらしたはばたきと短い滑空を交互にして直線的に飛び，杭・土塊・枝などに止まって餌を探す。頻繁に低空飛翔をするのも特徴。数は多くない。

関係法令の指定状況

ワシントン条約　附属書Ⅱ

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

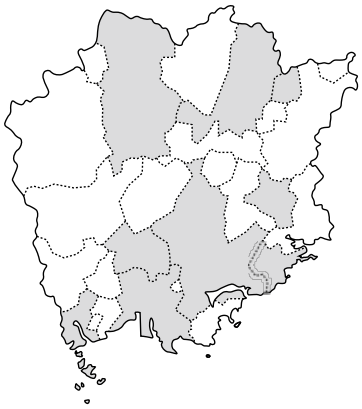
（丸山健司・多田英行）

コチョウゲンボウ

Falco columbarius insignis（Clark, 1907）

ハヤブサ目　ハヤブサ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：影山克己



選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。圃場整備，草地開発，河川整備，宅地開発などによって生息地となる開けた草地環境が減少している。

形態

雄全長29cm，雌全長33cm，翼開長64 ～ 74cm。尾はチョウゲンボウより短い。雄は頭から体の上面が青灰色で，尾の先には黒帯があり，体の下面は白く，胸と腹が淡黄褐色で黒い縦斑がある。雌は体の上面が灰褐色で尾には数本の黒帯がある。下面は白く胸には黒い縦斑，腹には三日月斑がある。

分布

北半球の寒帯と温帯に分布する。繁殖期は，開けた原野・ツンドラ・湿地や海岸の砂地などにいる。冬期はインド・中国東部・日本に渡来して越冬する。

生息状況

日本へは冬鳥として，北海道・本州・四国・九州地方に渡来する。農耕地・干拓地・海岸などに飛来するが，数は多くない。小刻みなはばたきを主として速く飛び，反転や急降下をして小鳥を捕える。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

越冬期には，数羽から十数羽の集団ねぐらをとる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

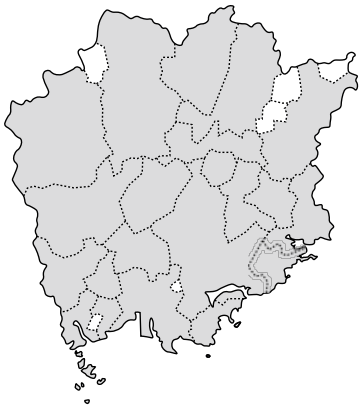
（丸山健司・多田英行）

ハヤブサ

Falco peregrinus japonensis Gmelin, 1788

ハヤブサ目　ハヤブサ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：濱　孝志



選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在している。近年は観察例が増加傾向にあるが，繁殖個体数の増減は不明。河川整備，湖沼開発，海岸開発，草地開発などによって生息地が減少している。営巣地に適した崖地の減少も危惧される。

形態

雄全長41cm，雌全長52cm，翼開長84 ～ 120cm。頭から後頸は灰黒色。背・翼・尾は暗青灰色で尾は比較的短く，黒い横帯がある。頬にはひげ状の黒斑が目立つ。胸･腹･翼下面は白く黒い横斑がある。

分布

南極を除くほとんど全世界に分布する。日本では，北海道から本州･四国･九州で繁殖する。沖縄などには冬鳥として渡る個体がある。

生息状況

主に海岸の断崖で繁殖する例が多いが，山地や市街地での繁殖例もある。岡山でも海岸近くの断崖，山地の石切場の崖や市街地のビルそして鉄塔など多彩な場所で繁殖しているが，その数は多くない。

関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣
日米渡り鳥等保護条約，日ロ渡り鳥等保護条約
ワシントン条約　附属書Ⅰ

特記事項

水平飛行時の速度は100km前後，急降下時の速度は，時速390kmを記録した。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ヤイロチョウ

Pitta nympha Temminck & Schlegel, 1850

スズメ目　ヤイロチョウ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：小林健三

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県中部～県北部で局所的。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減っている。

形態

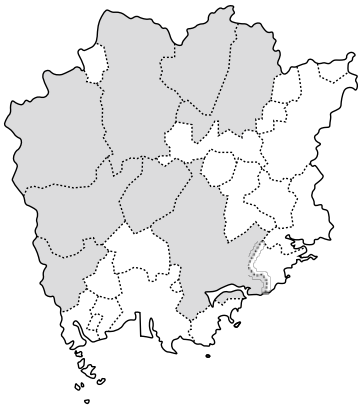
全長18cm, 雌雄同色。足は比較的長くて尾は短い。体は茶色･緑･コバルト・黄色・黒など多彩な色をもつ美しい鳥である。警戒心が強い。湿った常緑広葉樹や落葉広葉樹林などの深い森でミミズや昆虫を捕食する。

分布

東南アジアで越冬して夏鳥として日本に渡来して繁殖する。日本での繁殖地は分散的で九州・四国・中国・中部地方が主要な渡来地である。

生息状況

岡山県では，中部・北部のよく茂った森林地帯に極めて限られている。その姿を捕えることは難しく，鳴き声は特徴あるピィフィー・ピィフィーと２声で鳴くが早朝が主であるためその声を聞くのも困難である。



関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣，日中渡り鳥等保護協定
ワシントン条約　附属書Ⅱ

特記事項

日本での推定生息数は150羽程度と言われている。

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）　（丸山健司・多田英行）

サンショウクイ

Pericrocotus divaricatus divaricatus（Raffles, 1822）

スズメ目　サンショウクイ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

撮影：三村啓子

選定理由

主に春秋の渡りの季節に県内全域で観察されるが，国内の個体数は減少傾向にある。県北部で局所的に繁殖をしているが，その数は多くない。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。

形態

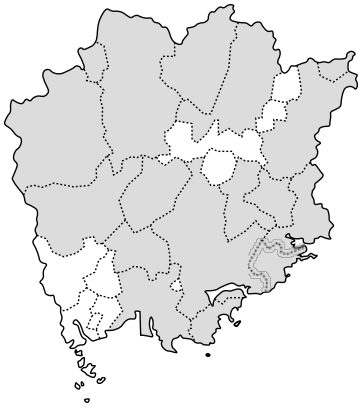
全長20cm，雌雄ほぼ同色，体は細くて尾は長め，くちばしの先は少しかぎ形に曲がる。雄では額が白く，頭頂から後頸と過眼線は黒い。背から腰は灰色で，翼は黒くて風切羽基部に白色部があるので飛翔中白い線として見える。雌は頭頂から後頸が灰色。

分布

中国東北部から朝鮮半島および北海道を除く本州・四国・九州で繁殖して，冬期には中国南部から東南アジアなどに渡って冬を過ごす。

生息状況

生息状況について，気になる亜種である。全国で一時期極端にその数を減らし絶滅が危惧された。岡山においても，その姿を見ることができない時期が暫く続いたが，最近また繁殖期にその姿を少し見ることができるようになった。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

近年，亜種リュウキュウサンショウクイが岡山県内で生息が確認されるようになった。酷似しているのでその識別には注意を要する。リュウキュウサンショウクイは冬期にも岡山で生息する。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）　（丸山健司・多田英行）

サンコウチョウ

Terpsiphone atrocaudata atrocaudata（Eyton, 1839）

スズメ目　カササギヒタキ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：秋山　登

選定理由

個体数は少なく，生息地は県内全域に点在する。森林伐採，林相変化（植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。

形態

雄全長45cm（長い尾を含む），雌全長17.5cm，雄の中央尾羽はとても長い。雄は頭部と胸・脇が紫黒色で背中は紫黒褐色，くちばしと眼の外縁はコバルト色で腹は白い。雌の尾は雄より短く，頭部の黒色や眼の外縁のコバルト色も淡く，背と尾は橙紫褐色。若鳥の雄では尾が短い。

分布

日本と朝鮮半島・台湾の限られた地域でのみ繁殖し，冬は東南アジアで越冬する。

生息状況

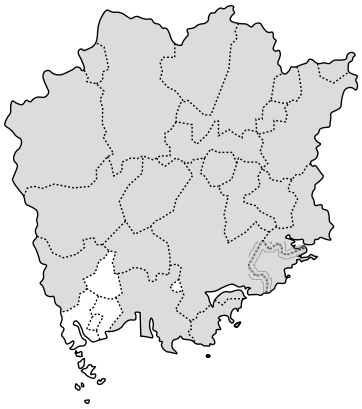
日本へは夏鳥として渡来し，北海道を除く本州・四国・九州から沖縄までの範囲で，平地から低山のよく茂った林に生息する。樹冠部の飛翔昆虫を捕食する。その生息数は多くない。

関係法令の指定状況

日中渡り鳥等保護協定

特記事項

「フィ チー ホイホイホイ」とさえずり，最初の節が「月，日，星」と聞こえることから「三光鳥」と名づけられた。



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

チゴモズ

Lanius tigrinus Drapiez, 1828

スズメ目　モズ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠA類（CR）

イラスト：三木國弘

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県中部～県北部に局所的。国内の個体数は激減しているが，県内の情報は少なく増減は不明。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成によって生息地が減少している。

形態

全長18.5cm，モズよりくちばしが太い。頭は青灰色，背と尾羽は赤褐色で黒い横斑がある。過眼線は黒いが，雌は不鮮明で白色部がある。声はギュン，ギュン，ギチギチギチと強い声で鳴く。

分布

東南アジアで越冬して夏鳥として渡来する。主に本州中部以北に局地的に渡来し，低地～山地の明るい林に生息する。雑木林やゴルフ場などでも見られたが近年は減少している。

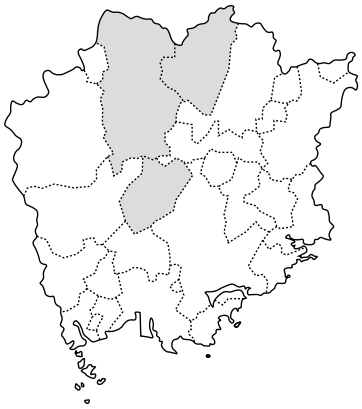
生息状況

岡山県での確認は，秋の渡りの時期にごく少数が確認されている。

関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定



文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

アカモズ　*Lanius cristatus superciliosus* Latham, 1802

スズメ目　モズ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県内で局地的。県内には渡りの途中に渡来するが，全国的に個体数が減っている。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成によって生息地が減少している。

形態

全長20cm，頭頂から背・尾は赤褐色。翼は黒褐色で赤褐色の羽縁がある。額と眉斑は白黄色。過眼線は黒い。樹上に椀形の巣を造る。地上に飛び降りるようにして，昆虫・鳥・カエルなどを捕る。早にえを作る習性もある。

分布

日本には夏鳥として本州中部以北から北海道に渡来する。岡山においては，渡りの時期に通過する個体が観察される。

生息状況

低地から低山の明るい林・低木のある草地や林縁，ゴルフ場，公園などで見られる。木や棒杭などの目立つ場所に止まり，尾をゆっくり回す。

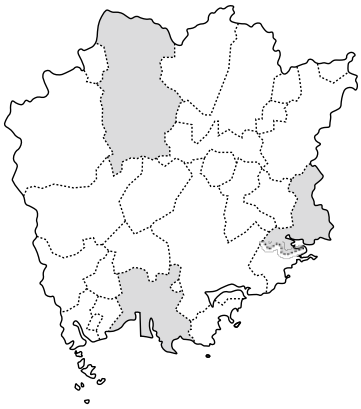
関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣
日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

イラスト：三木國弘



オオムシクイ　*Phylloscopus examinandus* Stresemann, 1913

スズメ目　ムシクイ科　●岡山県：情報不足　●環境省：情報不足(DD)

選定理由

個体数は少なく，渡来地は県南部を中心に局所的。近年の分類の見直しに伴って亜種から種に独立したため，過去の情報が不足しており，個体数の増減は不明。森林伐採，林相変化（植林地の荒廃）などによって生息地が減少している。

形態

全長12～13cm，メボソムシクイとオオムシクイ，コムシクイの３種は酷似していて目視による識別は困難。メボソムシクイが最大でコムシクイが最小である。上面はオリーブ色，黄白色の眉斑があり，大・中雨覆の先端がわずかに灰白色。下面は淡黄緑色。識別は鳴き声による。オオムシクイはジジジ，ジジロジジロ・・・と聞こえる。

分布

カムチャッカ半島から千島列島，サハリンそして北海道東部で繁殖する。渡りの時期に本州を通過して東南アジアで越冬する。

生息状況

渡りの時期春と秋に通過する個体を見ることができる。通過する場所は山地の林であったり河川のヨシ原であったり，特定な場所ではない。

関係法令の指定状況

メボソムシクイとして日中渡り鳥等保護協定

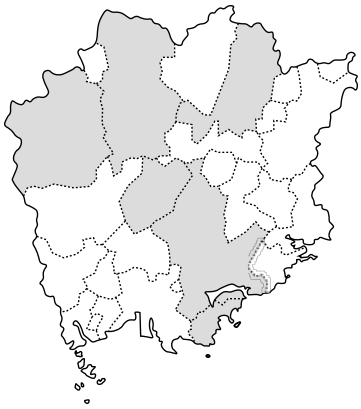
特記事項

以前はメボソムシクイの亜種コメボソムシクイとされていたが，日本鳥類目録第７版で別種のオオムシクイに分かれた。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

撮影：古田和生



オオセッカ

Locustella pryeri pryeri（Seebohm, 1884）

スズメ目　センニュウ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影：宮　彰男

選定理由

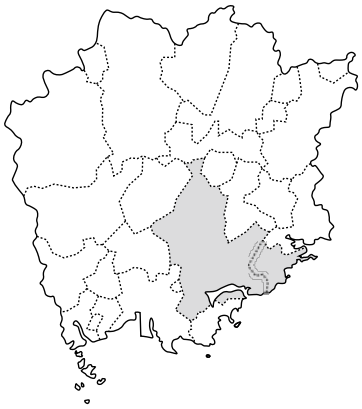
個体数はかなり少なく，生息地は県南部で局所的。越冬期の県内推定個体数は10羽以下。湿地開発，河川整備，植生遷移，土地造成によって生息地が減少している。生息環境として遷移途中の下層植生を伴うヨシ原を好むため，今後の生息地の悪化が危惧される。

形態

全長13cm，尾が比較的長い。体の上面は褐色で背には太い黒色縦斑がある。眉斑は淡褐色不明瞭。下面は灰白色で脇はオリーブ褐色。雄はジュクジュクジュクとさえずりながら放物線を描くように飛ぶ。

分布

日本では東北から関東にかけて局所的に繁殖する。冬期には主に関東から東海にかけて越冬し，瀬戸内海沿岸は越冬地の西限域と考えられる。岡山県では冬期に県南部のごく一部のヨシ原で生息が確認されている。



生息状況

セッカよりやや大きく，冬期はスゲ類などの下層植生のある湿潤なヨシ原に生息している。ヨシ原の外に姿を現すことはまれで，鳴くこともほとんどないため観察は困難。主に昆虫やクモ類を捕食する。

関係法令の指定状況

種の保存法：国内希少野生動植物種
鳥獣保護法：希少鳥獣

特記事項

国内での生息推定羽数は2500羽強といわれている。日本固有亜種

文献　江田ほか（2018），叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コヨシキリ

Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps Swinhoe, 1860

スズメ目　ヨシキリ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：該当なし

撮影：古田和生

選定理由

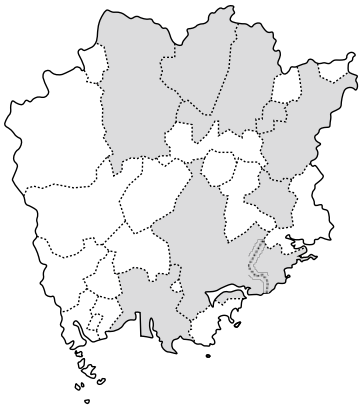
個体数はかなり少なく，生息地は県内全域で極めて局所的。県内での繁殖個体数は元々少ない上に，近年さらに減少していると思われる。草地開発，河川整備，湿地開発，池沼開発などによって生息地が減少している。

形態

全長13.5cm，オオヨシキリよりかなり小さい。体の上面はオリーブ茶褐色，白い眉斑の上に黒い線がある。下面は淡褐色。雄はヨシやヨモギの茎に止まって，ジョッピリリリ，ジョッピリリリ，ケケシ・・・・と鳴く。

分布

バイカル湖東部・モンゴル北東部・中国東北部からオホーツク海沿岸と日本に分布する。冬期は中国南部から東南アジアで冬を過ごす。



生息状況

日本では北海道から本州の中部地方までが主たる繁殖地だが，その数は少ないものの岡山県内の河川のヨシ原で繁殖する個体がいる。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

ゴジュウカラ

Sitta europaea amurensis Swinhoe, 1871

スズメ目　ゴジュウカラ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：村上義徳

選定理由

個体数は少なく，生息地は県中部～北部に点在している。近年，生息地が減少している。森林開発，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。

形態

全長14cm，頭から体の上面は青灰色で，白くて細い眉斑と黒い過眼線がある。体の下面は白くて脇は橙色，下尾筒は赤褐色から茶褐色で雄のほうが濃い色をしている。フィフィフィと高い声でさえずる。

分布

寒帯とインド南部を除く，日本・台湾を含むユーラシア大陸全域に分布する。ただし，ロシアから北東アジア・北海道までは亜種シロハラゴジュウカラ，中国東北部から朝鮮半島・日本の本州は亜種ゴジュウカラ，九州と四国のみに分布する亜種キュウシュウゴジュウカラに分かれる。

生息状況

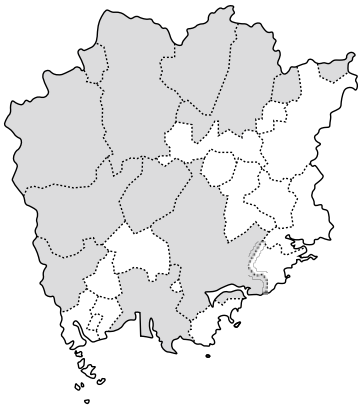
九州以北の山地の大木が多い落葉広葉樹林に多い。主に木の幹や太い枝で樹皮につく昆虫やクモなどを幹に縦にとまったり，逆さになったりして捕食する。岡山県では，北部山地，特にブナ林など，比較的古い林で見られるが，その生息数は多くない。

特記事項

日本では，ゴジュウカラ科は１種のみ３亜種が生息する。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）



マミジロ

Zoothera sibirica davisoni（Hume, 1877）

スズメ目　ヒタキ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：岡崎　誠

選定理由

個体数は少なく，生息地は県北部を中心に点在している。県北部で繁殖している。県南部では，渡りの時期に観察されることがある。森林開発，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。

形態

全長23.5cm，雄は全身がほとんど黒くて眉斑の白いのが目立つ。下腹には白い横斑がある。くちばしは黒く，足は橙黄色。雌は上面がオリーブ褐色で淡い眉斑がある。耳羽はオリーブ褐色，喉は淡いオリーブ色。

分布

夏期はシベリア南部・南西部とサハリンそして北海道から本州中部にかけて繁殖する。岡山では県北部の極一部のよく茂った森林地帯で繁殖する。冬期は，中国南部からミャンマー・マレーシア・ボルネオ島などで越冬する。

生息状況

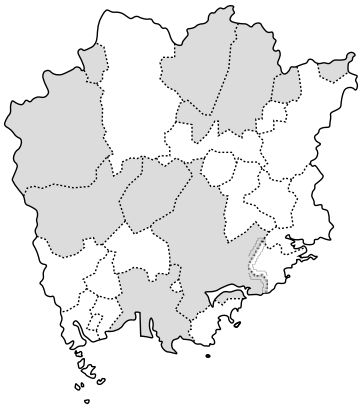
夏鳥として主に本州中部以北・北海道に渡来して，本州では標高1500m前後の林に生息するが，岡山県でも標高1000mほどの山地のブナ林などがあるよく茂った林に生息する。その数は少ない。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）



コマドリ

Luscinia akahige akahige（Temminck, 1835）

スズメ目　ヒタキ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：國方春行

選定理由

個体数は少なく，生息地は県南部～県北部に点在している。渡りの時期に県内の広い範囲で観察されている。繁殖地は県北部の一部に限られている。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。

形態

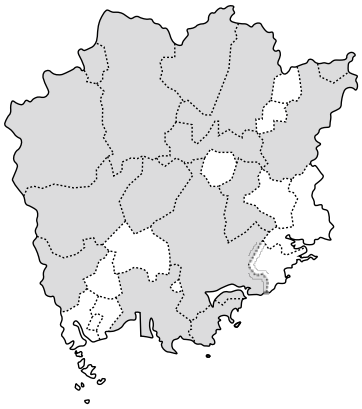
全長14cm，雄は頭部から上胸が橙赤褐色，背と翼は暗橙褐色で，尾羽は橙赤褐色。下胸は黒く，胸側から脇は灰黒色で，腹は白い。雌は全体に色が鈍い。

分布

夏鳥としてサハリンの一部と日本の北海道から本州・四国・九州に分布する。冬期は中国南部のごく限られた地域で越冬する。

生息状況

九州以北の亜高山地帯のクマザサなどが茂る渓谷や斜面に好んで生息している。やぶの中に居るので姿はなかなか見ることができない。岡山県では，県北部の針葉樹林や針広混交林で下草が茂った林などで，その声を聞く事ができる。その数は極めて少ない。ただし，春の渡りの時期には人家近くの林でもその姿を見ることができる。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

「ヒン　カラカララ」とさえずることから，馬のいななきを連想する。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コルリ

Luscinia cyane bochaiensis（Shulpin, 1928）

スズメ目　ヒタキ科　　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：香西宏明

選定理由

個体数は少なく，生息地は県北部を中心に点在する。森林伐採，林相変化（広葉樹林の減少，植林地の荒廃），土地造成などによって生息地が減少している。また，シカの増加による林内の下草植生の減少によって生息環境の悪化が危惧される。

形態

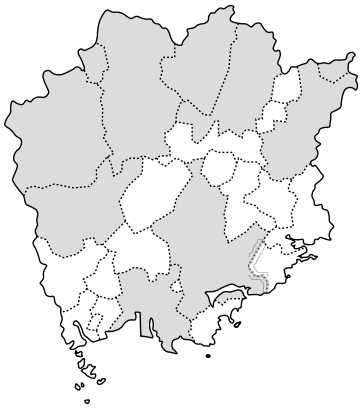
全長14cm。雄は上面が暗青色で，眼先・喉の両側・胸側が黒く，下面は白い。雌では上面がオリーブ褐色で腰から尾には少し青味があり，下面は淡いオリーブ色で胸側はオリーブ褐色である。

分布

夏期はシベリア南部とサハリンを含む極東地方および中国東北部から朝鮮半島，日本で繁殖する。日本では主に本州中部以北から北海道の山地に生息する。岡山県では北部に夏鳥として渡来するが，その数は多くない。

生息状況

岡山県では，県北部の落葉広葉樹林の下生えのある林に夏鳥として渡来するが，その数は多くない。特に近年はシカによる下生えの食害により減少し生息環境が荒らされ，さらにその生息数を減らしている。



関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

西日本での繁殖個体は，非常に少ない状況になっている。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

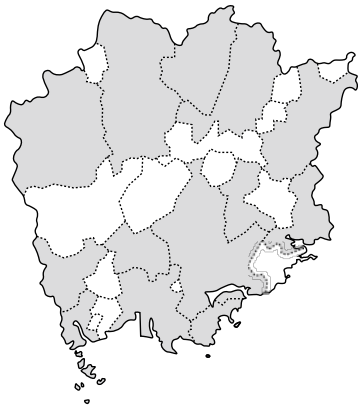
（丸山健司・多田英行）

ホオアカ

Emberiza fucata fucata Pallas, 1776

スズメ目　ホオジロ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：該当なし

撮影：小林健三



選定理由

主に越冬期に観察されるが，個体数は少ない。生息地は県南部を中心に局所的。県北部では少数の繁殖が確認されているが近年減少している。草地開発，湿地開発，河川整備，圃場整備などによって生息地が減少。

形態

全長16cm，雄は頭が灰色で，頬は赤褐色，体の下面は白くて胸に黒と褐色の２本の横帯がある。雌は色が鈍い。冬羽では頭が灰褐色となり，下面も淡い褐色となる。

分布

バイカル地方からモンゴル・アムール・中国東部・朝鮮半島・日本に分布する。日本では，北海道から本州中部以北が主な生息地で，中部以南では高原などに分布する。岡山県では，県北部のごく一部の草原で繁殖している。

生息状況

本州中部以南では高原の草原で繁殖することが多い。岡山県においても北部の草原が広がる地域の限られた場所で繁殖が確認されているが，その数は少ない。ただし，冬期には北方から移動してきた個体が県南部の平地・水田・農耕地や河川敷などでも見ることがある。よって，岡山では周年生息が確認できる。

関係法令の指定状況

日ロ渡り鳥等保護条約，日中渡り鳥等保護協定

特記事項

ホオジロに酷似するが，頬が赤い。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

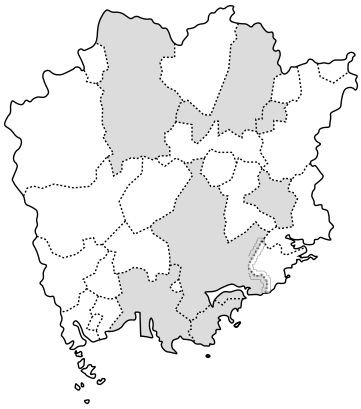
（丸山健司・多田英行）

ノジコ

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel, 1848

スズメ目　ホオジロ科　●岡山県：準絶滅危惧　●環境省：準絶滅危惧(NT)

撮影：濱伸二郎



選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県南部から北部で局所的。森林伐採，林相変化（落葉広葉樹林の減少，林床変化），里地の荒廃などによって生息地が減少している。

形態

全長14cm，雄の頭部は暗灰緑色で，眼先が黒く眼の外縁は細く白い。背は灰緑色と黒の縦縞。体の下面は硫黄色で脇にわずかに灰緑色の縦斑がある。雌の頭部は少し淡く，眼先が黒くない。

分布

主に夏鳥として渡来し，本州中・北部の山地の落葉広葉樹林で繁殖するが局地的である。西日本で越冬するものもいる。冬期は台湾・中国南部・フィリピン北部で越冬する。岡山でも県北部で繁殖が確認されているが，局地的である。岡山での確認はその多くが冬期である。

生息状況

県北部での繁殖確認は貴重な事例である。継続して繁殖できる環境を維持していく事が大切となる。また，冬期に越冬する個体がいる事も重要視しなければならない事項である。

関係法令の指定状況

日中渡り鳥等保護協定

特記事項

繁殖地は日本に限られる。

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

コジュリン

Emberiza yessoensis yessoensis（Swinhoe, 1874）

スズメ目　ホオジロ科　●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　●環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

撮影：森末善昭

選定理由

個体数はかなり少なく，生息地は県南部を中心に局所的。全国的に個体数が減少傾向にある。河川整備，湿地開発，植生遷移，土地造成などによってヨシ原や草地・草原などの生息地が減少している。

形態

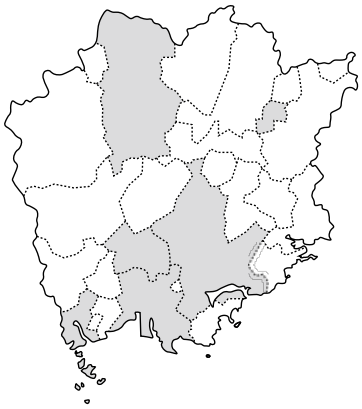
全長14.5cm，雄の夏羽は頭部から喉が黒く，後頸は赤褐色，背は赤褐色と淡黄色および黒色の縦縞模様がある。腰は茶褐色，腹は白い。雌の頭部は黒褐色で眉斑と頬線は赤褐色である。雄の冬羽は雌に似る。

分布

中国東北部と朝鮮半島および本州の中部と北部および九州の一部で局地的に繁殖するのみ。冬期は中国南部の一部と日本の中国四国・九州の一部で越冬しているのみ。

生息状況

生息地は非常に限られていて，平地の湿った草原や山地の草原の草の根元に巣作りをするが，そのような環境が減少し，その生息数は極端に少ない。岡山では主に冬期の確認であるが，非常に珍しい種となっている。



関係法令の指定状況

鳥獣保護法：希少鳥獣

文献　叶内ほか（2013），叶内 解説（2017），環境省 編（2014），日本鳥学会 編（2012），大西 解説（2014），高野（2015），吉井 監修（1988）

（丸山健司・多田英行）

主な参考文献

江田伸司ほか，2018．岡山の野鳥たち～むかし・いま・みらい～．58pp．岡山
叶内拓哉ほか，2013．山渓ハンディ図鑑７新版日本の野鳥．672pp．山と渓谷社，東京
叶内拓哉 解説，2017．フィールド図鑑日本の野鳥．431pp．文一総合出版，東京
環境省 編，2014．レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-2鳥類．250pp．株式会社ぎょうせい，東京
日本鳥学会 編，2012．日本鳥類目録改訂第7版．438pp．東京
大西敏一 解説，2014．決定版日本の野鳥650．788pp．平凡社，東京
高野伸二，2015．フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版．392pp．財団法人 日本野鳥の会，東京
吉井正 監修，1988．コンサイス鳥名辞典．588pp．三省堂，東京